

■ケーススタディ 一覧

※カテゴリ欄が赤色となっているものは、2025年5月にカテゴリを変更したものです。

No.	カテゴリ	タイトル	ケース	関連法令	資料作成日 (初回アップ日)
001	法令順守 ほか	コンプライアンスケーススタディ 2012年3月以前 (まとめ19点)	契約書の管理 入社3年目、営業部のTさんは、受注した仕事の契約書を自分の机の中に保管していました。確認したいことがあったときに、手元にあると便利だからです。あるとき、その仕事で顧客とのトラブルが起こり、責任の所在について議論になりました。責任については、机の中にある契約書に記載してあったはずですが、他の書類と一緒にシュレッダーしてしまったのか、いくら探しても見つかりません。仕方なく顧客から契約書のコピーをもらい、その場はおさまりました。しかし、「契約書を紛失するような企業は信用できない」と、契約を打ち切られてしまいました。	個人情報保護法、労働安全衛生法、製造物責任法、下請法、刑法、金融商品取引法、外為法、廃棄物処理法、	2012/1/1
002	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2012年4月	勝手に押印したら罪になる？ 印刷会社で営業を担当しているAさんは、顧客のBさんとの雑談が盛り上がり、納品確認書に押印してもらうことを忘れてしまいました。その日は非常に忙しく、Bさんの会社に再訪問する時間が無かったAさんは、近くにあった文房具屋でBさんと同じ名前の三文判を購入し、自分で納品確認書に押印しました。後日、印影の違いから、その事実が発覚しました。Aさんは、上司と共にBさんに謝罪しましたが、強い不信感を抱いたBさんは、今後の業務を他の印刷会社に依頼するようになりました。	刑法	2012/4/1
003	相談窓口	コンプライアンスケーススタディ 2012年5月	虚偽の内部通報で、懲戒処分に 遊技機の販社メーカーの営業部に勤務しているA部長は、部下のCさんに営業方法や、取引先との交渉方法などを熱心に指導していました。A部長は、立派なセールスパーソンになって欲しいとの思いでCさんを指導していましたが、Cさんは「少しは自分のやりかたでやってみたい」と感じていました。イライラがつのったCさんは、「少しは部長を黙らせてやろう」と、内部通報窓口に「パワハラまがいの指導をされている」と虚偽の通報をしました。通報を受けたコンプライアンス部は、A部長や営業部に事実関係の調査を行いました。Cさんが言うパワハラまがいの指導は確認されませんでした。後日、不審に思ったコンプライアンス部が、具体的にどのような行為を受けたかをCさんに確認したところ、Cさんが虚偽の報告を行った事実が判明しました。Cさんは、内部通報制度を悪用したとして、社内規程違反となり懲戒処分を受ける結果となりました。		2012/5/1
004	インサイダー取引	コンプライアンスケーススタディ 2012年6月	外部の人が「インサイダー取引」？ Aさんは、あるテレビ局の報道部でニュース番組の制作を行っています。ある日Aさんがニュース番組の準備をしていると、キャスターの原稿に、大手外食チェーン店が競合他社と合併するニュースが書かれているのを目にしました。そこでAさんは、ニュースがオンエアされる前に携帯電話でこのチェーン店の株式を購入し、オンエア後に売却することで大きな利益を上げました。しかし、後日Aさんとテレビ局は、証券取引等監視委員会の検査を受け、このインサイダー取引が発覚。Aさんは懲戒免職になってしまいました。	金融商品取引法	2012/6/1
005	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2012年7月	友人の店を手伝い懲戒処分に！ Aさんは、飲食店を営んでいる友人から、「人手が足りないから、日曜日に店を手伝ってほしい」と頼まれました。Aさんは快く引き受け、飲食店の仕事を手伝ったところ、謝礼として8,000円を受け取りました。「いい小遣い稼ぎになる」と思ったAさんは、会社に許可をとらずに、その後も週末に友人の店を手伝うようになりました。ある日、たまたまAさんの会社の人がその友人の店に来たことで、Aさんが無許可で副業していることがバレてしまいました。結果、Aさんは懲戒処分となりました。		2012/7/1
006	賄賂、接待、賭け事の禁止	コンプライアンスケーススタディ 2012年8月	民間企業同士であっても贈収賄になる？ 運送会社を経営するAさんは、社有しているトラックの車検が3日後に切れることをすっかりと忘れていました。慌てて、3日間で車検に対応してくれる車両整備工場を探しましたが、時すでに遅し。近場にあるいくつかの車両整備工場から断られてしまいました。そこでAさんは、高校時代の友人で隣町で指定整備工場を営んでいるBさんに話を持ちかけました。Bさんは、はじめはその依頼を断りましたが、Aさんから「手抜き検査でいいから頼む。少ないけど、謝礼も出すから...」と懇願されたため、検査をせずに申請書類を偽造して、車検を通してしまいました。後日、AさんとBさんは警視庁交通捜査課に贈賄・収賄の容疑で逮捕される結末となりました。	刑法	2012/8/1
007	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2012年9月	私用のスマートフォンを業務に用いる危険性は？ A社は、セキュリティ上のリスクがあることを理由に、個人所有のスマートフォンを業務で使うことを禁止していました。しかし、A社の営業であるBさんは、「しっかり管理していれば大丈夫!」と会社に黙って自分のスマートフォンを業務に使うようになりました。ある日、Bさんが趣味でインストールしたアプリケーションが、実は不正目的に作られたもので、電話帳に登録してあった取引先情報のすべてが漏えいすることになってしまいました。		2012/9/1
008	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2012年10月	たばこの煙で裁判に！ Aさんの経営している会社は、喫煙場所は分けられていますが、たばこの煙は職場にそのまま流れ込んでいる状況です。今までは誰も文句を言いませんでしたが、中途入社してきたBさんは「きちんと分煙してほしい」と要望しました。Aさんは、「いつか、ちゃんと分煙するから我慢して」と返事をしましたが、今までこのやり方でやってきたし、うまい対応策も思いつかず、忙しさもあって結局何も行いませんでした。数か月後、Bさんは労基署へ通告し、さらに健康被害を受けたとして訴えを起こしました。	健康増進法	2012/10/1
009	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2012年11月	労災保険に入っていない？ Aさんは物流会社で働いています。ある日、運搬中の荷が崩れ、Aさんは下敷きになってしまいました。大きなケガではありませんでしたが、通院が必要になったため、労災（労災保険）について上司に相談してみました。すると、「うちは労災に入っていないから労災は申請できないよ。治療費は出すから病院の請求書出して。でも休んだらその分の給料は出ないよ。」と言われてしまいました。	労働基準法	2012/11/1
010	道路交通法	コンプライアンスケーススタディ 2012年12月	飲酒運転を見過ごさない！ Aさんは、休日に職場の同僚たちを自分の車に乗せてパーベキューに出掛けました。ビールを飲むことをためらっているAさんを見た同僚たちは、「少し休憩すれば平気、平気。乾杯〜」と、Aさんにビールを飲ませてしまいました。パーベキューが終わり、酔いもすっかり醒めたAさんは同僚たちを乗せて出発しましたが、みんなを送る途中で検問にあい、Aさんは酒気帯び運転、同乗者も全員、「飲酒を勧めた者」または「車両の同乗者」として検挙されました。このことは、すぐに会社が知ることになり、Aさんと同乗者全員は懲戒処分となりました。	道路交通法	2012/12/1
011	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2013年1月	自分のポイントカードにポイントを貯めたら… Aさんは一番の若手社員のため、よく会社で必要なもの（マウスやDVDメディアなど）を家電量販店へ買いに行かされています。Aさんは、その買い物で発生するポイントを「会社からポイントカードを渡されていないし、もったいないから」と自分のポイントカードにチャージしていました。その後、Aさんは貯まったポイントで買い物をして、そのことを先輩に話しました。後日、その話を聞いた上司から「そのポイントは会社の資産じゃないのか？もしかすると横領になるかもしれない。懲戒処分も覚悟しておいてくれ。」とAさんは言われてしまいました。Aさんは、軽率な行動をとってしまったことを猛省しました。	刑法	2013/1/1

012	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2013年2月	退職時、営業秘密を持ち出したら… X社で営業職に就いていたAさんは、退職後、同業のY社に転職しました。X社在籍時に付き合いのあった顧客の連絡先が携帯に残っていたので、これを利用しない手はないと考えたAさんは、X社の顧客に対して営業をかけました。すると、これまでの付き合いでAさんを気に入ってくれていた複数社の顧客が、Y社の製品に乗り換えてくれました。不審に思ったX社が調査したところ、退職したAさんが自社の顧客にばかり営業をかけていることが発覚しました。その後、「Aさんが営業秘密を持ち出した」としてX社は訴訟を起こしました。	不正競争防止法	2013/2/1
013	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2013年3月	仕事量が多すぎると… P課長は、仕事ぶりが真面目な部下のZ君に信頼を寄せており、様々な業務を命じていました。Z君は命じられるまま、全てをこなすべく残業を続け、ほとんど家にも帰れない状態です。一見、Z君は仕事熱心で責任感のある社員に見えますが、裏では溜めていた怒りにまかせて「自分は、まるでP課長の奴隷だ」、「こんな職場、長くは続けられない」など、P課長や会社の悪口ばかりを言っていたのです。Z君の愚痴を聞いていた同僚のNさんは、Z君とP課長の話し合いの場を設定しました。話し合いの場でZ君は、日頃の仕事で我慢していたことを素直に話しました。また、それを知ったP課長は、Z君に頼りきっていたことを反省しました。以来、Z君はP課長の理解もあって、仕事量の調整ができるようになり、高いモチベーションで仕事に取り組めるようになりました。		2013/3/1
014	景品表示法	コンプライアンスケーススタディ 2013年4月	通常価格？ セール価格？ Aさんが営む寝具店は、まもなく開店から5周年目を迎えます。そこでAさんは、3日間限定で全品3割引きの謝恩セールを開催することを決めました。さらにAさんは、セールの目玉商品として新製品の高級羽毛布団を初めて仕入れ、販売することにしました。販売時の値札にはセール時の価格とセール後の販売予定価格（将来の販売価格）を併記していました。セールは大成功し、多くのお客様に喜んでもらえてAさんも大満足でした。その後、友人にセールの時の話をしたところ、「それって二重価格になっちゃうんじゃない？」と指摘を受けました。	景品表示法	2013/4/1
015	輸出入関連	コンプライアンスケーススタディ 2013年5月	以前に一度輸出していれば問題ない？ 商社であるM社は、F国からある化学薬品を含んだ部材の発注を受けました。過去にも同様の発注があったことから、M社の担当者はこれまでどおり、製造メーカーのS社に発注を行いました。その後S社から、部材の納入、輸出貿易管理令に対する該非判定書の提出がありました。判定書は「非該当」の判定で、前回も同様のもので問題はなかったため、M社内で特別なチェックはせず、出荷手続きを行いました。しかし出荷後に通関業者から、部材に含まれる薬品は輸出貿易管理令に該当する旨の連絡を受けました。前回の輸出と今回の輸出の間に法改正があったそうです。	外為法	2013/5/1
016	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2013年6月	研修費用を返還させることはできる？ Aさんは、B社の「宅建の資格を取得できます」と書かれた求人広告を見て、応募し採用されました。Aさんの配属部署は全員が宅建の有資格者で、すぐに会社の指示で外部研修を受講することになりました。その際、B社では資格取得後にすぐに会社を辞めてしまわないように「資格取得後、1年以内に退職する場合は、研修費用（実費）を返還する」旨の誓約書をAさんに提出させています。その後、Aさんは宅建の資格を取得しましたが、8か月後一身上の都合で退職することになりました。B社は誓約書の内容に基づき、Aさんに研修費用（実費）の返還を求めましたが、Aさんが拒絶したため、B社は裁判を起こしました。	労働基準法	2013/6/1
017	景品表示法	コンプライアンスケーススタディ 2013年7月	試験結果をパッケージに記載したら… A社は、冷凍庫で凍らせた後、首に巻きつけることにより、冷却効果が得られる冷却ベルトを販売しています。またパッケージには、主な使用環境として「炎天下での作業用」と掲載していました。A社は、試験の結果から得た「冷却効果持続時間」をパッケージに記載し、商品を販売していましたが、後日、消費者庁から景品表示法の『優良誤認』にあたるとして措置命令を受けることに。A社の試験では、高い温度の部屋で木の板の上に冷却ベルトを置いて冷却効果持続時間を測定していましたが、消費者庁がパッケージに掲載されている使用環境で試験を行ったところ、冷却効果持続時間が著しく減少していることがわかりました。	景品表示法	2013/7/1
018	法令順守	コンプライアンスケーススタディ 2013年8月	未成年へのお酒の提供はバレっこない？ Aさんが働く居酒屋に、外見や言動が未成年に見える客が来店しました。しかし、忙しい時間帯だったこともあり、もめて時間をとられるのが嫌だったAさんは、「警察に見つかるとはないだろう」と考え、年齢確認をせずにアルコールを提供しました。しかし、その客は店内の別の客と口論の末、傷害事件を起こしてしまいました。当然、取り調べで、その客は未成年であることが発覚。Aさんの働く居酒屋は、未成年者飲酒禁止法違反の容疑で家宅搜索されてしまいました。	未成年者飲酒禁止法、風営法	2013/8/1
019	公正な取引	コンプライアンスケーススタディ 2013年9月	値下げの採算がとれないから・・・ Aさんは、販売会社の従業員です。困ったことに今回仕入れた商品の売り上げが、当初の見込みほど伸びず、在庫が多く発生してしまいました。保管するにも費用がかかるので値下げを決めましたが、利益率は低くなってしまう。採算割れを危惧したAさんは、値下げ額に相当する金額を、納入業者に値引きさせました。値下げが功を奏したのか無事商品は売れ、損失も最小限に抑えられたAさんは、その後も同様の取引を繰り返しました。ところがある日、独占禁止法違反で課徴金の納付を命じられることになりました。	独占禁止法	2013/9/1
020	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2013年10月	ソーシャル・ハラスメントとは？ Aさんは、友人とのコミュニケーションにSNSを利用しています。ある日会社の上司から「友達申請」が届きました。Aさんは気が進みませんでしたが「拒否するのは気まずい」という思いから、しぶしぶ承認しました。その後、上司の投稿に対する反応やコメントを強要される、説教的なメッセージが頻繁に送られてくる、更新内容や友人とのやりとりを職場で話題に出される、といったことが続きました。次第にプライベートも上司に監視されているようなストレスを感じたAさんは、それが原因で体調を崩し、職場を去ることとなりました。		2013/10/1
021	相談窓口	コンプライアンスケーススタディ 2013年11月	内部通報に対する報復人事 食品メーカーA社の営業部署のチームリーダーを任されていたXさんは、会社ぐるみで試験データを改ざんしていることに気付き、社内の内部通報窓口に通報しました。しかし、内部通報窓口の担当者からは、「そんな事実はありえない」と一方的に通報内容を否定されてしまいました。会社の対応に納得できなかったXさんは、「真実を公表すべき」との思いで、報道機関に内部告発しました。通報は事実であったと認められ、A社には行政処分が下されました。しかしその後、Xさんは上司から配置転換を告げられ、チームリーダーの職位からもはずされてしまいました。Xさんはこれを報復人事であるとして会社を訴えました。結果、これを認める高裁判決が下り、A社はさらなる企業イメージの低下を招いてしまいました。	公益通報者保護法	2013/11/1
022	個人情報の管理	コンプライアンスケーススタディ 2013年12月	書類が見当たらない・・・ A銀行は、地域に密着した地方銀行です。ある日、書類整理の作業時に、行員の一人が顧客の情報が見当たらない事に気づきました。A銀行が行った社内調査では、情報が悪用された形跡や、二次被害などが確認されなかったため、盗難ではなく誤廃棄だろうと決定づけ、被害者に直接謝罪をしました。しかし、新聞などで紛失の疑いが報道されると「個人情報保護に対する意識が甘いのではないか」と情報管理体制を問題視する声が上がリ、その対応に追われることになりました。	個人情報保護法	2013/12/1

023	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2014年1月	治療費は出すから… A社では、ビルの設備工事を請け負っています。現場責任者のBさんは、ある日、工事作業中にCさんがケガをしたと報告を受けました。A社は下請けのため、元請けのZ社の労災で補償を受ける形になります。しかしBさんは「Z社に迷惑がかかる」「Z社から受注が無くなる」という懸念を持ちました。それで、Cさんには「家でケガをしたことにして治療を受けてくれ。自己負担分は会社が支払うから」と指示を出し、労働基準監督署へ報告をしませんでした。ところが後日、今後の治療費のことを不安に感じたCさんが匿名で労働基準監督署へ通報し、Bさんは労働安全衛生法違反の容疑で書類送検されることになってしまいました。	労働安全衛生法、労働安全衛生規則	2014/1/1
024	廃棄物処理法	コンプライアンスケーススタディ 2014年2月	再利用できるものは廃棄物ではない？ 住宅建設会社のAさんは、前任者から資材の調達や処理に関する業務を引き継ぎました。建設現場では、多くの木くずが発生し、これまでは産業廃棄物処理業者に有料で処分してもらっていました。ある日、木くずが堆肥として利用できることを知ったAさんは、「肥料の原料」として堆肥製造業者に無償で引き取ってもらうことにしました。しかし、コストカットになると喜んでいたのも束の間、この処理方法は廃棄物処理法違反に該当すると他部署から指摘を受けてしまいました。	廃棄物処理法	2014/2/1
025	相談窓口	コンプライアンスケーススタディ 2014年3月	通報窓口に相談したのに・・・ 製造メーカーの総務部に所属するAさんは、コンプライアンス通報窓口の担当を兼任しています。ある日、社外通報窓口を委託している会社から、パワハラの情報があるとの報告を受けました。そのとき、Aさんは他業務で忙しく、また通報が匿名だったため、加害者と思われる管理職へのヒアリングだけを行うことにしました。そして、その内容から問題なしと認定しました。しばらくして、ある従業員が自殺を図りました。パワハラの事実を問題ないと判定され絶望した結果の行動でした。このことは、マスコミに大きく報道され、遺族が損害賠償を求める裁判を起こしました。		2014/3/1
026	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2014年4月	定期健康診断の受診を拒否すると？ A社に所属しているBさんは、業務が忙しく会社から指定された日の定期健康診断に行きませんでした。その後もBさんは、「受診しなければ」と思いつつも、仕事が忙しいことを言い訳に、会社からの受診勧奨を無視し続けるようになりました。また自主的な健康診断も受けず、その結果、Bさんは会社から譴責（けんせき）処分を下され、始末書を提出することになってしまいました。	労働安全衛生法	2014/4/1
027	景品表示法	コンプライアンスケーススタディ 2014年5月	福引きの景品は高額でもいい？ メーカー直営のスポーツショップに勤めるAさんは、週末のセールに関連した企画を担当することになりました。Aさんは福引きを企画し、セールを盛り上げるために豪華賞品を景品に設定しました。目玉は30万円のゴルフクラブセットで、対象者は5,000円以上の商品購入者です。企画は大当たりし、セールは大変盛況でした。しかし後日、景品が高額すぎるとして消費者庁から調査・措置命令があり、このことがマスコミでも報道されてしまいました。	景品表示法	2014/5/1
028	知的財産	コンプライアンスケーススタディ 2014年6月	不正コピーの恐怖 社内異動で部署が変わったYさん。新しい部署のパソコンには、今まで使っていたソフトが入っていなかったため、不便に感じていました。そこでYさんは、以前の部署の後輩から、半ば強引にソフトを借りて、インストールディスクを複製。著作権法違反とわかっていながら自分のパソコンにソフトをインストールしました。その後、Yさんは、異動先の部署の同僚や上司にもインストールを勧め、数名がインストールをしました。1年後、不正コピーの事実が外部に漏れて、Yさんの会社は多額の賠償金をソフトウェアメーカーに支払う結果となりました。	著作権法	2014/6/1
029	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2014年7月	安全衛生体制は整っていますか？ 250人ほどの従業員が働く製造会社。10年以上契約してきた産業医との契約が先月切れてしまいました。社長のAさんは、新たな産業医を探しましたが医師不足が原因でなかなか見つけることができません。「すぐ困ることもないし、そのうち見つかるだろう」と思ったAさんは、労働基準監督署に報告せず放置してしまいました。それから3年後、調査に訪れた労働基準監督署の監督官に、産業医を選任していないことについて指摘され、是正勧告を受け罰金も支払うこととなりました。	労働安全衛生法	2014/7/1
030	公正な取引	コンプライアンスケーススタディ 2014年8月	安売りしないように、販売価格を指定したら・・・ Aさんは食品メーカーの営業課に勤務しています。ある日、某スーパーのチラシで自社の商品が特売として掲載されているのを見つけました。「このような売られ方だと、自社の商品に『安物』というイメージがついてしまう」と考えたAさんは、そのスーパーに「値引きをするにしても500円以下では販売しないように。それが守れないなら、今後商品は卸さない。」と伝えました。ところが後日、この行為は独占禁止法に違反するとして、公正取引委員会から排除措置命令を受けてしまいました。	独占禁止法	2014/8/1
031	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2014年9月	悪気はなくても・・・ Aさんは、会社の飲み会で、B課長に「子供は産まないのか」と聞かれました。これはB課長のいつもの口癖で、普段は不快に思いつつも聞き流すAさんですが、みんなの前で大声で言われ、深く傷つきました。次の日Aさんは、飲み会にも同席していたC部長に相談しましたが「そんなことあったっけ？」と知らん顔。仕方なくAさんは外部の機関に相談し、ほどなくしてB課長は厳重注意を受けることになりました。B課長は、悪気はなかったようですが、深刻な事態と受け止め、セクハラに対する認識不足だったことを、Aさんに謝罪しました。		2014/9/1
032	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2014年10月	上司の責任は？ ある企業で営業所長をしているAさん。営業所の経理作業は部下であるBさんにすべて任せて、経理に詳しくないAさんはチェックをしていません。しかしある時、AさんはBさんのお金の使い方に違和感を覚えました。Bさんは、年末年始や休暇のたびに海外旅行へ行ったり、高額な腕時計をいくつも持っているのです。また、忘年会の2次会費用をすべて出したり、Aさんを高級料亭に連れて行きご馳走するなど、異様に羽振りが良いのです。「Bさんの給料ではとても賄いきれない金額なのは」とAさんは不思議に思いながらも、深く考えずに放置していました。その後Bさんは、売掛金を偽造し、会社のお金を横領していたことが発覚して解雇処分に。Aさんも監督指導義務を怠ったとして懲戒処分を受けることになりました。		2014/10/1
033	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2014年11月	「厳しい指導」と「パワハラ」の境界線は？ 食品メーカーで長年、営業を担当してきたA部長。若い頃は先輩社員から厳しい指導を受け、実績を積み上げてきました。職場では、ノルマ未達成のBさんに対して、みんなの前で、「お前、今月の数字をどう達成するつもりだ。絶対達成しろ。死んでもやれよ」などと怒鳴っていました。そんなA部長の暴言を見て見ぬふりで誰も止めず、結局Bさんは精神的につらくなり、会社に出社できなくなりました。その後、A部長の言動はパワーハラスメントに該当すると判断され、A部長は社内規程違反により懲戒処分となってしまいました。		2014/11/1

034	知的財産	コンプライアンスケーススタディ 2014年12月	契約範囲外の用途で著作物を使用したらどうなる？ 人事部のAさんは、従業員教育として、外部講師を招き講演会を実施することにしました。記録として講演内容を残したかったAさんは、講師と契約を結び、ビデオカメラで講演内容を録画しました。後日、出席できなかった社員からの要望もあり、編集した講演会の動画を社内のイントラネットに公開。動画は大変好評だったため、講師にその旨を報告したところ、「編集することや、社内で公開することなんて聞いていない」と、会社宛てに厳重な抗議を受けました。録画の承諾は得ていたものの、利用の承諾までは得ていなかったAさん。会社から責任を問われ、「けん責処分」を受けることになりました。	著作権法	2014/12/1
035	基本的人権	コンプライアンスケーススタディ 2015年1月	自分は冗談のつもりでも・・・ 東京本社の営業部に、地方で採用されたBさんが配属となりました。出身地を離れ、希望の営業職に就いたBさんは、自己紹介も元気いっぱいです。すると、聞き慣れない方言を耳にした営業部のA部長は、軽い冗談でBさんの口調を物まねして、地方出身者であることをからかいました。Bさんは笑顔で聞いていたので、A部長は、その後も悪気なく、物まねを続けました。しかし日を迫うにつれ、Bさんは誰とも話さなくなり、ついには出社しなくなりました。Bさんは、方言でからかわれていることを悩み、うつ病になってしまったのです。その後、Bさんの家族から抗議を受けた会社は、A部長を責任者として不適格と判断し、降格処分を下しました。		2015/1/1
036	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2015年2月	口は災いのもと エンジニアのAさんは、新商品の開発を担当しています。試作品が完成し一息ついたAさんは、友人と食事に行くことにしました。会話も弾んで気の緩んだAさん。「ここだけの話だけど・・・」と、未発表の新商品について自慢話を始めてしまいます。後日、Aさんの会社には、新商品に関していくつも問い合わせが…。あわてて情報源を調べると、先日Aさんが友人と食事をした際、隣席の男性がAさんの話を聞いていたようで、その内容をブログにアップしていました。そこから多くのサイトに転載されたため、情報が広まってしまったようです。正式発表前に新商品の情報が漏れてしまった痛手は大きく、Aさんはその責任を問われ、会社から「けん責処分」を受けることになりました。		2015/2/1
037	公正な取引	コンプライアンスケーススタディ 2015年3月	販売地域を他社と取り決めた結果 食品会社X社の営業部長Aさんは、自社製品と同種の製品を数社が出しており、価格競争で販売価格を維持できないことに悩んでいました。ある日、業界団体の会合で情報交換をすると、他社も販売価格の下落に頭を悩ませていました。そこで、各社生きのこりをかけ、販売価格の維持を図るために、販売地域を取り決めることにしました。販売地域での余計な競争がなくなって、Aさんは「これで共倒れの心配がなくなった」とホッとしていました。ところがある日、X社に公正取引委員会の立ち入り調査が入ることに。カルテルに加盟した企業のうち1社が自主申告したため、X社の関与も発覚し、独禁法違反として摘発されてしまいました。	独占禁止法	2015/3/1
038	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2015年4月	ストレスチェックを活用しよう X社のIT部門で働くAさんは、仕事に追われ残業続きの毎日。夜もぐっすり眠れず、注意不足でミスを連発してしまい、自分でも情けなくなるほどでした。そんなある日、Aさんは、以前社内メールで見た「ストレスチェックテストのお知らせ」を思い出します。「ちょっとやってみようかな」とテストを受けてみると、予想より重い「高ストレス」状態だという結果ができました。そこで、チームリーダーに申し出て産業医と面談することに。面談の内容は守秘義務でしっかり守られるということでした。数回の面談を経て、Aさんはすっかり元氣を取り戻し、今ではチームになくてはならない存在となっています。		2015/4/1
039	法令順守	コンプライアンスケーススタディ 2015年5月	暴行事件を起こした顛末は・・・ 最近、管理職になったAさんは、部下の指導に一苦勞。ある日、ストレス解消に行った飲み会で、つい飲み過ぎてしまいました。ひどく酔ってしまい、降りる駅を乗り過ごしてしまったAさん。駅の改札を無理やり出ようとしたところ、注意してきた駅係員に腹を立て、殴る等の暴行を加えてしまいました。それを見ていた他の駅係員が警察へ通報し、Aさんは逮捕・勾留されることに。勾留を解かれた後、事の経緯を上司に報告すると、社内で大問題となりました。後日、Aさんは管理職として不適格との判断を受け、降格処分となってしまいました。		2015/5/1
040	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2015年6月	有給休暇を取りたいのに・・・ 工場勤務のAさんは、友人から飛び石連休を利用した旅行に誘われ、有給休暇を申請することにしました。すると上司から、「うちの部署は、いつも忙しいのがわかっているだろう。休暇は認められない」との返答が。理由を聞いても「休暇は認めない」の一点張りです。久しぶりの旅行を楽しむにしていたのに有給休暇を認めてもらえず、ガッカリしたAさん。急いで、友人に断りの連絡を入れました。「うちの会社、有休も取れないんだよ。ひどいでしょ・・・」Aさんの口からは、会社への不平不満がこぼれていました。	労働基準法	2015/6/1
041	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2015年7月	委託先の不祥事が原因で・・・ 服飾メーカー・A社の通販部門では、顧客データ管理を委託する業者を探していました。他部門で取引のあるX社は、価格が魅力的で社内の評判も良かったので、社内ルールで決められた調査を省いて早速、契約することにしました。半年後、「知らない会社からDMが届いた」という顧客からの問い合わせが急増。社内調査を行うと、X社の社員が金銭目的で顧客名簿を売っていたことが発覚しました。このニュースは瞬く間に拡がり、A社の社長が記者会見を開くことに。頭を下げて弁解に努めた社長でしたが、その後も被害は収まらず非難の矛先はA社へ。世間から「委託元にも責任がある」と判断され、A社の信用は著しく低下してしまいました。		2015/7/1
042	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2015年8月	これって労働時間じゃないの？ 精密機械メーカーの工場で働くAさん。クリーンルーム内の作業に従事しているため、就業規則で作業服の着用が義務付けられています。Aさんには、上司の指示で納得できないことがありました。クリーンルームの作業者は、退勤の打刻をしてから、後片付けや着替えを行わなくてはならないのです。後片付けや着替えは業務に必要だからやっていることですし、思いのほか時間がかかります。上司の命令だから仕方なく従っているAさんは、「後片付けや着替えは労働時間にならないの？」と不満をため込んでいました。	労働基準法	2015/8/1
043	個人情報の管理	コンプライアンスケーススタディ 2015年9月	マイナンバーは、利用目的以外に利用してはいけません 総務課のAさんは、マイナンバーを取り扱う事務の担当者に任命されました。そこで、今後の手続きに備え、従業員からマイナンバーを入手することに。Aさんは、源泉徴収の事務に必要なことを理由に、従業員全員からマイナンバーを取得し、特定個人情報(※2)ファイルに登録しておきました。翌年、社会保険の手続きでマイナンバーが必要に。Aさんは、昨年登録した特定個人情報ファイルのマイナンバーを使って処理を進めました。しかし、その対応がマイナンバーの不正利用にあたるとの指摘が…。Aさんは、急遽、従業員への説明対応に追われることになってしまいました。※1 今回は、マイナンバー制度導入時の事例を想定しています。※2 「特定個人情報」とは、マイナンバーを含んだ個人情報のことです。	個人情報保護法、マイナンバー法	2015/9/1
044	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2015年10月	誰が責任者なの？ X社は、Y社のシステム保守作業を請負契約で受託しており、従業員数名が出向いて、Y社内で仕事をしています。X社の責任者はAさん。ところが責任者というのは名ばかりで、Y社のシステム部長の指示を受け、それをX社の従業員に伝えるだけの役目です。毎日、X社の社員もY社の朝礼に出席し、システム部長の指示で動きます。残業や休日出勤の指示もY社の言いなりで、いつしかX社の従業員から「おれたちの上司は一体、誰なんだよ」と不満の声が上がっていました。そして、ついにX社の従業員達が労働局に通報。それにより偽装請負が発覚し、X社・Y社ともに労働局から文書指導を受けてしまいました。		2015/10/1

045	マナー違反	コンプライアンスケーススタディ 2015年11月	風邪を引いたら周りにうつさないのはマナーです 責任感の強いAさん、仕事をバリバリこなしています。仕事が大詰めを迎えたAさんは風邪を引いてしまいました。「風邪かな。でも、休んで仕事を止めたら会社に迷惑をかける。少し咳が出るけど、発熱はないし大丈夫だろう」と、Aさんはマスクもせず出社して仕事をしました。ところが、しばらくして社内に風邪が蔓延。どうやらAさんの風邪が原因となったようです。会社のためを思って出社したのが逆効果となってしまいました。「やっぱり無理をせず休めば良かった。みんなに申し訳ない…」Aさんは反省しきり。せめて、きちんとマスクをしていたら、こんなことにならなかったかもしれません。		2015/11/1
046	公私混同	コンプライアンスケーススタディ 2015年12月	友人からの願いを断れずに… 飲料メーカーに勤務するAさんは、展示会のブース装飾を担当する業者を決めるよう、上司に指示されました。見積金額や提案内容のよかったX社に決めようと思っていた矢先、Aさんの友人から、「仕事に困っている。Aくんの会社が展示会に出展するときに、うちのY社を使ってもらえないか」と連絡が入りました。Aさんは、ひとまずY社から見積もりと提案をもらいましたが、X社には及ばない内容でした。しかし、友人の願い出を断ることができず、Y社に依頼することになりました。この行為が内部監査で見つかり、Aさんは懲戒処分を受けてしまいました。		2015/12/1
047	賄賂、接待、賭け事の禁止	コンプライアンスケーススタディ 2016年1月	ゴルフコンペを盛り上げようと思ったが… 総務部のAさんは、親睦会の幹事になりました。最近、親睦会もマンネリ化。Aさんは盛り上がりそうな企画を考えていました。「ゴルフコンペをやって、みんなにその順位を予想させるのはどうかな。お金も賭けるようにすれば盛り上がるだろうし」とAさんが後輩のBさんに相談すると、「お金を賭けるのはまずいんじゃない」との忠告が。しかし、Aさんは「そんな堅いこと言わないで。少額だし仲間内なら平気だよ」と企画を推し進めました。コンペ当日、やはりお金を賭けたためか、みんなプレーに一喜一憂し、大いに盛り上がりました。企画の成功にAさんは大満足でしたが、Bさんは罪悪感でいっぱいです。後日、参加者からの告発で賭けゴルフが明るみに。賭博行為をしたとして参加者は会社から処分を受けてしまいました。	刑法	2016/1/6
048	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2016年2月	悪意のあるスマートフォンアプリ Aさんの会社の営業部門では、今まで業務用には会社から支給された携帯電話を使用していましたが、営業用アプリの導入に伴い、個人所有のスマホを業務にも使用することを含め「BYOD」という方法を導入することになりました。ある日、Aさんは自宅でそのスマホを使用しているとき、前から欲しかった有料アプリに似た機能のものが無料でダウンロードできることを知り、早速インストールすることになりました。ところが後日、そのアプリにはスマホ内の個人情報を盗むウイルスが含まれているということが判明。悪意のあるアプリにより、Aさんのスマホから取引先の個人情報が漏えいし、会社と取引先に多大な迷惑をかけてしまいました。		2016/2/1
049	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2016年3月	ワークライフバランスを保ちましよう 総務課のAさんは、任された仕事はきっちりこなします。半年前、同じ部署の後輩が異動したため、Aさんは従来の業務に加え、後輩がやっていた業務も担当することになりました。責任感の強いAさんは月100時間を超える残業をしながら頑張ります。同僚のBさんは、そんなAさんのことを心配していました。ある日「今日もまた残業？」と聞くと、「私の仕事だから、やらなくちゃ…」と答えるAさん。顔色が悪く、いつ倒れてもおかしくありません。それを見かねたBさんが上司に相談し、Aさんの業務を分担することになりました。その後、Aさんは残業時間が減って、以前の元気な姿に戻りました。		2016/3/1
050	マナー違反	コンプライアンスケーススタディ 2016年4月	インターネット上でのマナー・モラル Aさんは、インターネット上では過激な発言で有名な人物。深夜、ブログに投稿することが日課です。「あー、すっかり！ブログだと好き勝手なこと書いていいな」。Aさんは匿名であるのをいいことに、差別発言を連発。そんなAさんの目に余る発言に対して、コメント欄で批判する人物が現れました。Aさんは、その人物に対して、痛烈な個人攻撃で対抗します。その攻撃は日に日にエスカレートしていき、執拗に侮辱的な暴言を書き込むようになりました。その結果、ブログは荒れに荒れ、ついに炎上。そして投稿内容などからAさんの会社と実名が特定され、会社に関い合わせや苦情が殺到。会社から懲戒処分を言い渡されてしまいました。		2016/4/1
051	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2016年5月	深夜や休日にトークアプリで業務連絡 グループでの会話や既読表示の機能がある便利なトークアプリ。Aさんの部署でも業務連絡をトークアプリで行うことになりました。Aさんは初め「連絡がとりやすくていいな」と思っていました。ところが、マメな上司からの連絡は早朝・深夜お構いなし。しかも、すぐ返事をしないと催促が来ってしまう始末。上司からの連絡が気になって、心が休まる暇がありません。休日のある日、Aさんが友人と遊んでいると、また上司からのメッセージが。一読すると、やはり仕事のことで緊急性の低い内容。せっかくの休みなので返事を後回しにしていると、上司から「何で既読スルーをするんだ！」と叱責のメッセージが。Aさんは苦痛になって、スマートフォンを見るのも嫌になってしまいました。		2016/5/1
052	良好な職場環境	コンプライアンスケーススタディ 2016年6月	コミュニケーションの少ない職場 商社で働くAさん。ある日、X社からの部品発注の手配を忘れていることに気づきました。「しまった、納期が過ぎてる」「上司に相談したら、また頭ごなしに怒られるんだろうな。先輩に相談してもどうせ迷惑がられるだろうし…」。Aさんの職場では、困っている人がいても周囲は見ても見ぬふりをするばかりです。結局、誰にも相談できず困ったAさんは、「まっ、いいか。今からでも間に合うだろう」と自己判断し、誰にも告げずにそのまま手配を行いました。数日後、Aさんの部署にX社からクレームの電話が。「おたくに発注した部品が届かず、ラインが止まっているんだけど」……X社のライン停止による損失は大きく、その結果、取引停止を言い渡されてしまいました。また、Aさんはその責任を問われ、会社から「けん責処分」を受けることになりました。		2016/6/1
053	法令順守	コンプライアンスケーススタディ 2016年7月	ストレスから軽い気持ちで薬物に手を出すと… 営業部のAさんは、成績不振でストレスを感じる毎日。ある日、友人のBさんにその悩みを相談しました。すると「これ、吸ってみたら？嫌なこと忘れられるよ。合法だし」と何かを差し出すBさん。それは薬物で、Aさんは怪しいなと思いましたが、「1回くらいなら」と軽い気持ちで手を出してしまいました。効果は抜群で、薬物を摂取するとAさんはストレスから解放されたような気がしました。その後、解放感を求めて、薬物使用を繰り返すようになっていったAさん。「いつでもやめられる」と思っていたAさんでしたが、ついには薬漬けで部屋にこもり、会社に出社できなくなっていました。		2016/7/1
054	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2016年8月	前職の顧客リストを使って営業、これって法律違反!? ある家電メーカーの営業部に所属していたAさんは、転職を検討中。Aさんは、転職先で役に立つと思い、会社のサーバーで営業秘密として管理されていた取引先リストを、私物のUSBメモリーにコピーしておきました。数か月後には、ライバル会社であるX社への転職が実現。転職先で早く成果を上げたいAさんは、コピーしておいた前職の取引先リストを使って営業活動を行ったところ、売上に大きく貢献することができました。ところがその後、Aさんの行動に気づいた前の勤務先から、「当社の営業秘密を使用するな」「損害賠償金を支払え」と訴えられてしまいました。	不正競争防止法	2016/8/1

055	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2016年9月	心当たりのないメールを開いたら… ある日、購買部のAさんのもとに「お見積もりをお送りします」という件名のメールが届きました。差出人は取引先のBさん。見積もりを依頼した覚えのないAさんは不思議に思いながら、添付ファイルを開きました。ところが、添付ファイルを開いても何も表示されません。AさんがBさんに問い合わせると、Bさんはメールを送っていないとのこと。Aさんは、「危険な添付ファイルを開いてしまったのでは」と気づき、情報システム部門に調査を依頼しましたが時すでに遅し。Aさんのパソコンは遠隔操作ウイルスに感染し、個人情報や取引先のデータを外部に送信していたことが判明しました。		2016/9/1
056	個人情報の管理	コンプライアンスケーススタディ 2016年10月	従業員のプライバシー情報を知ってしまったら… 人事部のAさんは、従業員の健康診断を実施したり、診断結果を保管したりする業務をしています。ある日、今年度分の診断結果を整理していたところ、Bさんの診断結果が目にとまりました。その記録によると、Bさんはある病気で治療中でした。「元気そうなBさんが？」と意外に思ったAさんは、思わず同僚に話してしまいました。Bさんの病気の噂は社内にどんどん広まり、やがてBさんの耳にも入りました。Bさんは「知られたくなかったのに、ひどい！」と失意と怒りを感じるとともに、周りの目をいつも気にするようになり、退職してしまいました。		2016/10/1
057	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2016年11月	会社に損はさせていない？ 営業部のAさんは、地方にある得意先の担当を先輩から引き継ぎました。しばらくは、先輩から教わったとおり、3カ月に1度出張して、先方の担当者と打合せをしていました。出張を明日に控え準備していたところ、先方の担当者から「明日は急用が入ったため日程を変更してほしい。Aさんはよくやってくれているし、わざわざ来てもらわなくても、今回は電話での打合せでいいよ」と言われました。Aさんは「出張を取り消すのは面倒だ」と考え、当日は自宅で過ごし、会社から出張費を受け取りました。打合せは別の日に電話で済ませたため、取引には影響はありませんでした。		2016/11/1
058	基本的人権	コンプライアンスケーススタディ 2016年12月	「自分と違う」ことは悪いこと？ 新入社員のAさんは、10歳以上年齢が離れたベテラン社員ばかりが揃う部署に配属されました。配属された当初は、先輩たちとの関係は良好でした。が、次第に「これだから若い子は」「世代が違うから仕方がない」などと言われるように。「若いから何もできない」と決めつけられたと感じたAさんは、先輩たちに質問や相談することが減ってきました。すると先輩たちからは「若い子の考えていることは理解できない」と、仕事を回してもらえなかったり、部のイベントに誘ってもらえなくなりました。部署内で孤立してしまったAさんは、体調を崩し休職することになりました。		2016/12/1
059	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2017年1月	SNSアカウントが乗っ取られた！ Aさんの部署ではSNSを活用したPR活動を担当しています。ある日、「公式アカウントで不適切な投稿が繰り返されている」との問い合わせが殺到。慌てて確認したところ、Aさんたちが運営しているアカウントが何者かに乗っ取られていました。Aさんたちは、アカウントの停止や不適切な投稿の削除、お客様への説明などの対応に追われることに。そうしている間も、インターネット上ではこのことが話題になり、不適切な投稿は拡散されていきます。全ての対応が終わりSNSの運営を再開しても、「公式アカウントに乗っ取られた会社」というイメージを払拭するには時間がかかりそうです。		2017/1/1
060	反社会的勢力	コンプライアンスケーススタディ 2017年2月	「1回だけ」と相手の要求に応じたら… ある日、Aさんとはある出版社から、雑誌の購読依頼の電話を受けました。「よくあるサービス紹介か」と思ったAさんは、断り文句として「検討しておきますよ」と告げて電話を切りました。すると数日もたたないうちに、再び電話が。今度こそ断ろうと思ったAさんでしたが、「検討すると言ったのに」「同業他社のほとんどが購読している」「1回限りでよい」などと相手はなかなか譲りません。Aさんは「長引かせたくない」「少額だし…」と、「では1回だけ」と応じてしまいました。しかし、相手の要求は雑誌を1回購読しただけで終わらず、高額な図書の購入や広告の掲載、物品の購入など、次々と要求してくるようになります。実は、その相手は出版社を騙った反社会的勢力だったのです。		2017/2/1
061	知的財産	コンプライアンスケーススタディ 2017年3月	キャッチコピーがライバル会社の商品名だった Aさんの会社で新商品をリリースしたところ、ライバル会社から「チラシにうちが商標権をもつ商品名が使われている」との指摘がありました。チラシに記載したキャッチコピーに、ライバル会社がずっと以前に販売していた商品名が使われていたのです。そのキャッチコピーは、Aさんが、新商品の特徴を分かりやすく伝えようと一生懸命考えたもので、ライバル会社の商品名とは知りませんでした。また、身近な単語を組み合わせただけなので、商標登録されているとは思わず、事前に調査をしていませんでした。Aさんの会社は、指摘のあったキャッチコピーの掲載されたチラシや店頭POPなど、全ての販促物を作り直すことになりました。	商標法	2017/3/1
062	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2017年4月	パタニティハラスメント（パタハラ）とは？ 男性社員のAさんは看護師の奥さんと共働きで、子供を保育園に預けています。ある日、13時からの会議に出席しようとしていたAさんのスマートフォンに着信が…。どうやら、子供が保育園で熱を出してしまったようです。会議への出席を取りやめ、早退を申し出たAさんに、上司は冷たく言います。「男なのに子供が熱を出したぐらいで、穴開けてどうすんだ！」「次は許さないからな。」等々。その日はなんとか早退し、Aさんは子供を看病することができました。しかし、子供には持病があり、あと1年ぐらいは同様のことが起きそうです。夫婦で話し合った結果、Aさんと奥さんは、半年間ずつ交互に時短勤務を会社に申し出ることにしました。しかし、Aさんの上司は、「男が時短勤務なんて、正気か？」「そんな考えでは、評価に響くぞ」などの言葉を浴びせ、Aさんの希望を取り下げさせたのでした。	育児・介護休業法	2017/4/1
063	下請法	コンプライアンスケーススタディ 2017年5月	「買いたたき」とは？ ある小売店チェーンに勤務するAさん。自社ブランドの商品を数社の下請事業者に製造委託しています。しかし、最近売上が芳しくなく、多くの在庫を抱える商品があります。そこでAさんは、売上の芳しくない商品を製造している下請事業者のB社に「販売が低迷しているから」「在庫が過剰になっているから」といった理由で、従来の納入価格から大幅に下げるように依頼しました。B社は、Aさんの要求を受け入れないと取引が無くなるという不安から、本意ながら承諾しました。しかし、その後もAさんの値下げ要求は続き、B社は取引が赤字続きになってしまいました。困り果てたB社は、公正取引委員会の相談窓口につながることに。その結果、Aさんの会社は下請法違反で、公正取引委員会から勧告を受けることになりました。	下請法	2017/5/1
064	賄賂、接待、贈け事の禁止	コンプライアンスケーススタディ 2017年6月	外国公務員にリベートを渡すと？ 建設業のX社に勤めるAさんは、Z国の鉄道建設プロジェクトの担当になりました。Z国へ赴任すると、X社の現地支店の責任者から、「Z国では事業を円滑に進めるために、外国公務員にリベートを渡すことが習慣になっている」旨の説明を受けました。Aさんは、驚きましたが、「Z国で習慣となっているなら仕方ない」と考えました。しかし赴任から数か月後、このようなX社の現地支店とZ国の担当者の関係が発覚し、責任者とX社は不正競争防止法違反の罪で起訴されることになりました。Aさんは担当になったときに止めておけば、と後悔しました。※リベートとは、支払代金の一部を手数料や謝礼などの名目で、支払者に戻すお金のこと。	不正競争防止法	2017/6/1

065	輸出入関連	コンプライアンスケーススタディ 2017年7月	機械を輸出するときは、プログラムにも注意！ 通信機器メーカーの営業部で働くAさんは、東南アジアのバイヤーから、サンプル品の貸し出しを依頼されました。先輩のBさんから、「サンプル品であっても安全保障貿易管理の対象」との指導を受け、Aさんは機械輸出の手続きを進めました。先方の希望日までにサンプル品を届けられる見通しがついたのでBさんに報告すると、「それはよかった。付属のプログラムも忘れずに取引許可を受けているよね？」と聞かれ、Aさんはびっくり。サンプル品には、カスタマイズ用のプログラムとそのソースコードが付属しており、技術提供として、安全保障貿易管理の対象となることを知ったAさん。あわてて手続きを始めたが、先方の希望日にサンプルを届けられず、販路拡大のチャンスを失ってしまいました。	外為法	2017/7/1
066	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2017年8月	介護の疲れが溜まると・・・ 勤続20年を迎えるAさんは、検品部門のリーダーを任せられ、充実した毎日を送っていました。ある日、母親から「お父さんが転んで腰を打った」と電話を受けたAさん。ひと月振りに実家へ寄ってみると、ケガをきっかけに、両親の衰えが目立つようになっていました。姉と相談の結果、民間の介護サービスを利用しながら、二人で世話していくことに。平日の通院の付き添い、買い物、掃除などはAさんが引き受け、遠方の姉には休日を任せました。その日から生活は一変、工場の業務に加え、平日は実家へ通い、体力的にも精神的にもきつい毎日が続きます。「仕事も介護も、自分がかんばらねば」と追い詰められた結果、Aさんからは笑顔が消え、部下や家族、両親にもきつく当たるようになってしまいました。	育児・介護休業法	2017/8/1
067	景品表示法	コンプライアンスケーススタディ 2017年9月	宣伝文句が原因で、景表法違反・・・ 今期から自社商品の広告担当になったAさん。商品の良さをアピールするため、顧客満足度の高さを強調して宣伝することにしました。Aさんは、購入者アンケートの結果から「競合製品の満足度は知らないけど、これなら、うちの商品がナンバーワンと言ってもいいかな」と考え、「顧客満足度ナンバーワン（当社調べ）」というフレーズを広告に使用。そのおかげで、商品はヒットしました。ところがある日、Aさんの会社に消費者庁の調査が入り、「顧客満足度ナンバーワン（当社調べ）」の根拠を示す資料の提出を求められました。合理的な根拠を示せなかったAさんの会社は、事実と異なる不当表示を行ったとして、景品表示法に基づく措置命令を受けました。	景品表示法	2017/9/1
068	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2017年10月	自分の「におい」に無頓着でいると・・・ 営業部のAさんは最近、異動で隣席にやってきたBさんに悩まされています。Bさんは臭いには無頓着のようで、仕事を教えるために近づくと、ちゃんとお風呂に入っているか疑わしいほど汗臭く・・・。「いい人なんだけど、あの臭い、何とかならないかなあ」と思っていたAさんですが、Bさんに直接言うことができず、ひとりで悩んでいました。その後、他のスタッフもBさんの汗臭さに悩まされていたことがわかり、Aさんは思い切って上司に相談。上司は、職場全体に向けて、臭いに関するマナーを周知しました。それ以降、Bさんは清潔を心掛けるようになり、不快な臭いは消え、Aさんの悩みも解消しました。		2017/10/1
069	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2017年11月	会社貸与のパソコンに、許可なくソフトウェアをインストールすると・・・ 在宅勤務制度を利用しているAさんは、自宅で仕事をする時、会社から貸し出されたパソコンを使っています。ある夜、スマートフォンで情報サイトを閲覧していたら、パソコン用のフリーの写真編集ソフトウェアが紹介された記事を見つけました。「これなら、家族旅行で撮った写真を簡単に加工できそう。でも、家のパソコンは遅いから、会社のパソコンでやってみるか!」と、貸与されたパソコンにソフトウェアをインストールして、使うことにしました。しかし後日、業務とは無関係のソフトウェアを許可なくパソコンにインストールしたことが、情報管理部門に発覚。情報端末の取り扱いルールに違反したとして、Aさんは会社から厳重注意を受けてしまいました。		2017/11/1
070	賄賂、接待、賭け事の禁止	コンプライアンスケーススタディ 2017年12月	過剰な接待をした結果 営業部長のAさんは、取引先のY部長が今月末で異動になることを知りました。後任の部長とは面識がなかったAさん、今まで通りの売上を確保するため、新旧の部長に対し、接待の場を設けることにしました。Aさんは、社内ルールの上限額を無視して、Y部長を高級クラブでもてなし、後任者の好みを情報収集。そして「ここが勝負」と、後任の部長を高級料亭で接待し、用意した手土産にはギフト券を忍ばせておきました。一部を自費で補うルール違反の接待でしたが、「売上確保のため、やるべきことはやった」と、Aさんは満足していました。しかし後日、後任の部長からAさんの会社に対し、ギフト券の返却と「不適切な関係は望まない」というクレームが…。過剰接待の事実が明らかになったAさんは、けん責処分を受けてしまいました。		2017/12/1
071	下請法	コンプライアンスケーススタディ 2018年1月	過失なら、支払遅延は許される？ 大手メーカーの営業部で働くAさんは、パンフレットの印刷や発送を継続して下請事業者のX社に委託しています。ある日、長期出張から戻ったAさんが溜まった書類を整理していると、出張前に受け取っていたX社からの請求書に気づきました。「しまった、手続きを忘れていた！振込は、支払期日の1か月遅れになるけど、まあ勘弁してもらおう」と考えたAさんは、X社の担当者に支払いが遅れることをメールで連絡しました。しかしその直後、メールをCCで読んだ上司から、「X社に迷惑をかけるな。すぐに、経理に相談しなさい!」と叱られてしまったAさん。あわてて経理に対応をお願いし、何とか支払期日までに代金を振り込むことができました。	下請法	2018/1/1
072	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2018年2月	メールの誤送信に注意！ 取引先のX社に提出する企画書を、何度も修正していたAさん。提出期限日の夜遅くまで残業し、やっと完成した企画書を、慌ただしくメール添付でX社に提出しました。ところが翌朝、Y社から「X社宛のメールが送られてきたんですけど…」との連絡が。驚いて送信履歴を確認すると、メールを誤ってY社に送信していました。メールの誤送信に青ざめたAさんはY社に謝罪し、メールと添付ファイルの破棄をお願いしましたが、今度はX社から電話が。「期限は昨日なのに、企画書が届いていない。今日の会議で使うのに、間に合わないじゃないか!」とクレームを受けてしまいました。		2018/2/1
073	会計基準の順守	コンプライアンスケーススタディ 2018年3月	目標を達成するため、売上前倒しにした結果… 上場企業X社の営業部に所属するAさんは、今期からチームリーダーを任せられ張り切っています。ところが、ある月末、Aさんが見込んでいた受注が急にキャンセルとなってしまいました。「第1四半期末を迎える大事な月なのに、このままじゃ売上目標に届かない。リーダーの自分が何とかしないと…」と悩んだAさん。付き合いの長いお客様に無理を言って、来月分の発注を前倒ししてもらい、今月の売上として計上することにしました。「売上の計上は納品したものが対象だけど、来月早々には納品するし、今年度の売上に変わりはないからいいだろう」と考えたAさんでした。しかし、後日、営業部に内部監査が入り、社内規定に合わない不適切な売上が計上されていたことが発覚、問題となってしまいました。	金融商品取引法	2018/3/1
074	基本的人権	コンプライアンスケーススタディ 2018年4月	LGBTへの差別的言動は、認められません！ 営業部のAさんが社員食堂で食事をしていると、後ろから「昨日、電車でゲイのカップルがいて…」、「最近多いね、やっぱ気持ち悪いよな」という会話が聞こえてきました。自分がゲイであることを隠しているAさんは、「そんなふうに思ってるんだ」と悲しくなりました。また、ある飲み会では、酔っ払った部長から、「おまえ、まだ結婚しないのか。彼女はいるんだろう?」とからまれてしまいました。同僚からも、「もしかして、そっち系?」などとネタにされ、居たたまれなくなったAさんは、早々に退席することに。その後も度々からかわれたAさんは、職場にストレスを感じ、とうとう会社を辞めてしまいました。	男女雇用機会均等法、セクハラ指針	2018/4/1

075	良好な職場環境	コンプライアンスケーススタディ 2018年5月	相談したいのに忙しい先輩、どうしたらいい？ 「この提案書を月末までに仕上げてくれる？」と先輩から頼まれたAさん。作業を始めてみると、わからない点がいくつか出てきました。先輩に相談しようと思いましたが、とても忙しいそうで、話しかけにくい状況です。そのためAさんは「忙しいかな。明日にしよう」と考え、相談を後回しにしました。その後も声を掛けるタイミングをつかめなかったAさんは、結局、不明点を確認せず、自分の判断で提案書を完成させてしまいました。月末、提案書を見た先輩から「指示した内容と違うな。どうしてこうなったんだ？」と注意を受けたAさん。先輩の指導を受けながら、急いで書き直すことになってしまいました。		2018/5/1
076	良好な職場環境	コンプライアンスケーススタディ 2018年6月	海外赴任先のスタッフと良好な関係を築くには 英語が得意で、いずれは米国の自社拠点で働きたいと考えていたAさんに、海外赴任の辞令が下りました。しかし、行き先はアジア。気乗りのしないAさんは、赴任先の下調べをあまりせず現地へ向かいました。赴任先では、日本の常識が通用せず、考えられないことが次々に起こります。現地スタッフは時間にルーズ、その日にやるべき作業が残っていても定時に帰ってしまう、上司へのホウレンソウ（報告・連絡・相談）が全くない…。「これでは仕事にならない」とあきれたAさんは、自分のやり方に従わせようと、言い分も聞かず一方的に現地スタッフを叱責。両者の間には、次第に大きな溝ができ、業務にも影響が出るようになってしまいました。		2018/6/1
077	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2018年7月	たとえ上司の指示でも、データ改ざんに加担してはダメ！ ある工場で働くAさん、得意先から入った短納期の注文に対応するため、残業が続いていました。どうにか製造工程を終えましたが、品質検査で、要求仕様に合わない不合格品が通常よりも多いことが判明。Aさんが急いで上司に報告すると、「このくらいの差なら、前にも得意先と交渉しトクサイで出荷した」「ただ、今から交渉したり作り直したりしていたら、納期に間に合わない。検査数値を変えてくれ」と、データの改ざんを指示されてしまいました。「本当にいいのだろうか？」とAさんは戸惑いましたが、上司の指示には逆らえず、要求仕様に合う数値に書き換え、製品を出荷。しかし後日、データ改ざんの事実が外部に漏れ、経営を揺るがす大問題となってしまいました。		2018/7/1
078	賄賂、接待、賭け事の禁止	コンプライアンスケーススタディ 2018年8月	外国公務員に対し、代理店を通して金品を贈ったら… Aさんの勤務する商社では、海外市場の拡大を図り、X国との取引を計画中です。同国進出のリーダーを任されたAさんは、現地の代理店と契約して準備を始めました。数週間後、代理店のBさんとも信頼関係ができてきたある日、Bさんから「X国で取引を円滑に進めるには、政府機関への賄賂は当たり前。私から渡せば問題ない」と聞かされたAさん。「Bさんがそう言うなら、大丈夫だろう」と、代理店を通じて同国の政府職員に高額な金品を贈りました。しかし数週間後、この行為をX国の政府機関が内部告発。日本の検察が調査した結果、「外国公務員贈賄罪」に問われたAさんの会社は多額の罰金を科される事態となったのです。	不正競争防止法	2018/8/1
079	基本的人権	コンプライアンスケーススタディ 2018年9月	障害のある方への配慮 駅ナカの店舗で働くAさんは、店の入り口近くで数人が立ち話をしていたため、目の不自由な女性が中に入れず困っているのに気がきました。Aさんは駆け寄って、女性の腕を引っぱりながら「こちらへどうぞ」と誘導。しかし女性はびっくりして体をこわばらせ、「いえ、いいです」と帰ってしまいました。呆然とするAさんに、側にいた先輩が「いきなり腕をつかんだりしたら、驚かせてしまうよ。相手の身になって考えてみて」とやさしく諭しました。「そうか…。知らない人に急に腕をつかまれたら、びっくりするし、怖いかも」。Aさんはこの出来事をきっかけに、障害のある人への対応について考えるようになりました。	障害者差別解消法	2018/9/1
080	公私混同	コンプライアンスケーススタディ 2018年10月	ノベルティグッズは、誰のもの？ Aさんの会社では、ノベルティグッズとして、アニメのキャラクターを使ったストラップを制作しました。イベントで配ったところ、SNSなどで取り上げられ、ファンの間でも話題になっています。Aさんも客先訪問には必ず持参し、営業活動に役立てています。そんな折、昨年退職したBさんから、「あのストラップ、話題になってるね。実は、うちの家族が欲しがっていて、いくつか貰えない？」と頼まれました。Aさんは、「もともと無料で配っているんだし、いいよな」と考え、ストラップ数個を無断でBさんに送付。しかし後日、先輩にこの話をしたところ、「ノベルティグッズは、業務以外で勝手に配っては駄目だよ！」と注意されてしまいました。		2018/10/1
081	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2018年11月	仕事と介護を両立するには 今年で勤続20年となるAさん。最近、近所で一人暮らしをしている父親の物忘れがひどくなってきたので、Aさんの家で同居を始めることになりました。日常生活でこまごまとした手助けや配慮が必要と実感したAさんは、仕事でも父親のことが気になりミスをしてしまうことも…。ある日、そんなAさんを心配した同僚のBさんが、「この頃、疲れてない？」と声を掛けてきました。家の事情を誰にも相談できずにいたAさんは、父親の介護のことや、父親を一人で家に残すのが心配なことを打ち明けました。そして、このままでは仕事を続けられないと思っていることも…。するとBさんは、一人で悩まず、行政や会社（上司や専門部署など）に相談するようアドバイスしてくれました。	育児・介護休業法	2018/11/1
082	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2018年12月	飲酒の無理強いは、絶対ダメ！ プロジェクトの懇親会が始まって1時間が過ぎた頃、「お前は、俺の酒が飲めんのかー！」と課長の大声が店中に響きました。お酒に弱い若手のAさんは、「すみません、私はあまり飲めないの」と断っているのですが、興奮した課長は聞き入れません。「一緒に酔っ払ってこそ、本当の仲間だ」「俺が若い時は、倒れるまで飲んだぞ」などとしつこく絡みます。困った幹事は、その場を収めるため、会を早めに終わらせることにしました。後日、幹事は懇親会での課長の振る舞いを部長に報告。話を聞いた部長は、課長を厳しく注意するとともに、部門全体で飲酒時のマナーについて考える機会を設けました。		2018/12/1
083	下請法	コンプライアンスケーススタディ 2019年1月	口頭だけの発注は、トラブルの元 大手メーカーの工場に勤めるAさん。ある日、得意先から大量の注文が入ったのですが、製造に必要な部品が不足していました。Aさんは慌てて仕入先に電話をかけ、部品名と個数、納品日を伝えます。緊急の発注を何とか引き受けてもらい、ほっとしたAさん。「発注書は、今日中に送ればいいや」と思っていたのですが、電話を切った後もバタバタと忙しく、結局出し忘れてしまいました。そして迎えた部品の納品日。届いた部品は、なんと依頼した数の倍！驚いたAさんが仕入先に電話すると、「えっ、確かに電話で聞いた数量のはずですが…」と困惑した声が返ってきました。	下請法	2019/1/1
084	知的財産	コンプライアンスケーススタディ 2019年2月	地図サイトの情報をリンク・転載するときは 会社が主催する無料セミナーの運営を任されたAさん。今年は社外の会場を使うことになったので、告知サイトにはネットの地図を利用した案内図を掲載することにしました。告知サイトの公開を控え、レイアウトしたページを先輩に確認してもらおうと、「この地図、勝手に使っているの？著作権とか確認した？」という指摘が…。慌てたAさんが、地図サイトの利用規約を確認してみると、そこには「権利帰属※を明確に表示する」などの条件が書かれていました。Aさんは利用規約をよく読み、条件に従って権利帰属の表示を記載するなどの修正を行い、告知サイトを公開しました。※：著作権などの知的財産権が、誰にあるのかということ。	著作権法	2019/2/1

085	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2019年3月	服装の乱れが危険を招く！ 機械メーカーに中途採用されたAさんは、初めての工場勤務で緊張の日々を過ごしていました。しかし、現場には予想以上にたくさんのルールがあり、数週間経つと、少しうんざりし始めたAさん。「こんなにいろいろ決められても守れないよ。歩き方から始めて作業手順や廃棄ルール、その上、服装にも決まりがあるなんてバカバカしい。だいたい、上着はズボンに入れないとダメ、ボタンは全部はめる、そんなのダサいだけだよ」。やがてAさんは、こっそり作業服のボタンを外し、上着もズボンに入れないまま作業をするように…。ところがある日、ルールに反した服装で働いていたAさんは、作業服の裾を機械に巻き込まれそうになったのです。		2019/3/1
086	個人情報の管理	コンプライアンスケーススタディ 2019年4月	印刷した顧客リストを放置していたら… Aさんは入社2年目の若手社員。ある日、販促会議の準備をするため、お客様の名前や住所、購入履歴などをまとめた顧客リストを印刷していると、Aさん宛に電話がかかってきました。「その件に関しては、今日中に確認して連絡します…」などと対応に追われているうち、Aさんは顧客リストを印刷したことをすっかり忘れてしまいました。5分後、プリンターに放置されたままの顧客リストに気づいた部長が、「顧客リストを放ったらかしにしているのは、誰だ？個人情報の放置は厳禁だぞ！」と、スタッフ全員に向かって注意しました。		2019/4/1
087	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2019年5月	セクハラの実害は男性だけではなく！ 若手社員のAさんは、内気で恥ずかしがり屋の男性です。ある日、帰り支度をしていると、女性社員のBさんに「今日は早いじゃない。もしかしてデート？」と、声を掛けられました。プライベートな質問に困惑したAさんは、「そんなじゃないです…」とかわしましたが、Bさんは「いいじゃない、教えてよ。彼女いるんでしょ？今日はどこ行くの？」などとからかい続けます。Aさんは、恥ずかしさから黙り込んでしまいました。すると、近くにいたBさんの同僚が「それセクハラですよ〜。Bさんだって、『彼氏いるの？』とかしつこく聞かれたら嫌でしょ？同じことですよ」と注意。ハッとしたBさんは、「気づかなくて、ごめんなさい…」と謝りました。		2019/5/1
088	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2019年6月	お客様の悪口は厳禁！ 小売店で働くAさんは、ある日、店頭で女性客から声を掛けられました。「これより大きいサイズはある？」「色違いは？」「入荷待ちって、どれ位待つのか？」など、延々と続く質問に対応するAさん。しかし、お客様は何も買わずに帰ってしまいました。がっかりしたAさんは、同僚に向かって「疲れた〜。あのオバサン、しつこくて」「これだけ説明させて、結局買わないなんて失礼！」などと文句を言い始めます。周りを気にせず悪口を続けるAさんの近くを、何人ものお客様が、驚きあきれた表情で通り過ぎていきました。		2019/6/1
089	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2019年7月	バイトテロ、その結果… 食品加工工場でアルバイトとして働くAさんは、同年代の社員やアルバイトの数人と気が合い、親しくしています。ある日の休憩時間、SNSに投稿された面白い動画を見ながら盛り上がったAさん達は、もっとウケる動画を作ろうと、管理者のいない隙に、作業場の商品をつまみ食いしたり、ベルトコンベアに乗って遊んだりする様子を撮影し、SNSにアップしました。すると動画はすぐに拡散し、大炎上。マスコミに大きく取り上げられ、Aさん達はもちろん、職場の衛生管理や社員教育に対する非難も殺到。工場は操業停止となってしまいました。		2019/7/1
090	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2019年8月	その一言がマタハラです！ 育休を取得していた女性社員のAさんは、先月から子どもを保育園に預け、時短勤務で職場に復帰しました。周囲に迷惑を掛けないようにと気を張っていたAさんでしたが、子どもの発熱などで、会社を休んだり、早退したりすることもあり、心苦しく思っています。そんなある日、数人の同僚から「Aさん、勤務時間が短くていいなあ」「急な休みは、困るんだけど…」「無理に復帰しなくてもいいんじゃない？」と言われてしまいました。相手の言葉が胸に刺さり、Aさんは「皆に迷惑を掛けているし、会社を辞めたほうがいいのか…」などと思い悩むようになりました。	男女雇用機会均等法、 育児・介護休業法	2019/8/1
091	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2019年9月	有給休暇の取得は義務？ システム開発会社で働くAさんは、毎日誰よりも早く出社し、残業も苦にしない働き者です。ここ数か月は有給休暇も取らず、休日出勤も度々といった生活を続け、それが当たり前のような感覚になっていました。ある日のこと、上司から、「今年度は、まだ休暇を取ってないね。時期が決まったら、早めに申請してください」と指摘されたAさん。明らかに不満げな表情で、「何で休まないといけなんですか？」と上司に食ってかかりました。	労働基準法	2019/9/1
092	マナー違反	コンプライアンスケーススタディ 2019年10月	歩きたばこは、やめて！ 訪問先での長い商談を終えて、ほっとしたAさん。たばこに火をつけ一服しながら、商店街を駅へ向かって歩いていました。「ふー、最後にはお客さんも納得してくれて、本当によかった。これで、課長にいい報告ができるな」。と、そのとき、背後から走ってきた子どもとぶつかり、Aさんが持ったたばこの先が当たりそうになりました。「ごめん、何ともなかった？」と聞くAさん。幸いにも、子どもにケガはなかった様子で走っていましたが、周りの人達は、「歩きたばこって危ないわよね」「本当に迷惑！」と、ひそひそ話しています。居たたまれなくなったAさんは、足早にその場を去りました。		2019/10/1
093	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2019年11月	感情にまかせて怒鳴っても… 勤続3年目のAさんは、自分の部署に新しく配属されたBさんの指導係になりました。Bさんには、ケアレスミスが多い、人の話を最後まで聞かない、相談・報告をしないなどの問題が見受けられ、Aさんは何度も注意することに…。それでもあまり改善されないBさんの仕事振りに、イライラが溜まってきたAさん。ある日、いくつも同じようなミスをしたBさんに怒りがこみ上げ、「ココもココも間違っている、なぜできないんだ!」「そもそも、お前は…」などと感情的に怒鳴りつけました。あまりの剣幕にBさんは震え上がり、小声で「すみません」と繰り返すのみでした。		2019/11/1
094	景品表示法	コンプライアンスケーススタディ 2019年12月	ホントに「全品○○%オフ」!? 量販店で働くAさんは、店長から、セール用POPの作成を任されました。お客様に強くアピールしたいと考えたAさんは、「今度のセール、除外品もあるけれどわずかなし、値札を見ればわかるから問題ない」と、「全品○○%オフ!」というPOPを作り、店頭に大きく貼り出すことにしました。ところがセールの前週、できあがったPOPを確認した店長から、「セールは全品対象じゃないだろう、正しく書かないとダメだよ」と注意され、Aさんは大慌て。結局、POPは最初から作り直しになってしまいました。	景品表示法	2019/12/1
095	マナー違反	コンプライアンスケーススタディ 2020年1月	地域住民から見られています！ 道路沿いにあるA工場の向かいには、最近、コンビニやファストフードなどのお店ができ、社員がよく利用するようになりました。昼休みや休憩時間には、少しでも早く店へ行こうと、歩行者信号を無視したり、横断歩道ではない場所を渡ったりする人もいます。すると、それを見ていた近所の子どもが、マネをして信号無視をするようになり、保護者の間で問題に…。「危ないな、子どもが事故に遭ったら大変だ」「A工場の人たち、常識がないのかしら!」。後日、工場には、「信号無視など、危険な横断をやめて欲しい。交通ルールも守れない会社なのか」と、地域住民から苦情が寄せられました。		2020/1/1

096	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2020年2月	その発言、問題ない？ 総務部のAさんは、裏表のない性格で、いつでも誰にでも、思ったことをそのまま口にする女性です。仕事では頼もしいのですが、「髪切ったんだ、前のほうが良かったのに」「〇〇が好きなんで、変わってるね」など、同僚の見た目や嗜好にまで口出ししてしまうことも…。男性社員のBさんも、「やせすぎじゃない、不健康に見えるよ」「また体重減ったの、ガリガリ～」などとAさんから度々言われていました。自分の体型に悩んでいたBさんは、「気にしていることを、言われたくない」と、Aさんを避けるように…。後日、周りから事情を聞かされたAさんは、自分の言葉がBさんを傷つけていたことを知り、あわてて謝罪しました。		2020/2/1
097	相談窓口	コンプライアンスケーススタディ 2020年3月	勇気を出して、通報しよう！ 営業部のAさんは、以前から、同僚のBさんに対する部長の指導が気になっていました。Bさんを、皆の前で怒鳴る、意見を突っぱねる、長時間叱責するなど、過度に厳しいのです。「これってパワハラでは」と思ったAさんですが、部長本人には直接言えないし、相談窓口に通報してバレたら自分が標的になるかもと、そのままにしていました。そんなある日、「〇〇社の男性従業員、上司からのパワハラを苦に自殺。遺族が提訴。周囲は気づいていたが、見て見ぬ振り」というニュースを目にしたAさん。「パワハラを放置していたら大変なことになる。早く何とかしないと」と思い直し、急いで社内の相談窓口へ通報しました。	公益通報者保護法	2020/3/1
098	道路交通法	コンプライアンスケーススタディ 2020年4月	自転車の危険運転していませんか？ 「書留を出しに、郵便局へ行ってきます！」と周りに声を掛けて、事務室を出たAさん。空に雨雲が広がっていたので、念のため傘を持ち、会社の自転車に乗って急いで出かけました。「雨が降る前に、戻ってこられるかな…」しかし、帰る途中でポツポツと雨が降り始めます。「持ってきてよかった！」とAさんは傘を差しながら、自転車を運転することになりました。いつも通り、安全運転を心掛けていましたが、曲がり角から現れた女性に気づくのが遅れたAさんは、急ブレーキをかけるも、勢い余って転倒してしまいました。	道路交通法	2020/4/1
099	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2020年5月	職場での転倒事故に注意！ 工場で働くAさんは、資材の入った重い段ボールを持って、作業場へ向かっていました。その途中でスマホの通知音が鳴ったので、段ボールを通路の端に置いて電話に出ると、取引先からクレームが入ったことを聞かされます。「すぐに対応しなくちゃ！」と慌てたAさんは、荷物の床置きは禁止だけど、ちょっとだけ置かせてもらおうと思い、床の段ボールをそのままにして、事務室へ急ぎました。しかしそのわずか数分後、試作品を抱えて通りかかったBさんが、通路に置かれた段ボールに気づかず、つまづいて転んでしまったのです。		2020/5/1
100	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2020年6月	あなたの情報管理は大丈夫？ 出張のため新幹線で移動中のAさんは、会社から貸与されたスマホで、スケジュールや業務連絡などを確認していました。ふと顔を上げると、通路を挟んで斜め前に座っている男性が、ノートパソコンを使ってプレゼン資料を修正しているようです。その画面を何気なく見ていたAさん、プレゼン相手の企業名や、プレゼン内容までわかってしまいました。「あれじゃあ、情報が丸見えだわ。私も、出先でスマホやパソコンを使うときは気をつけなくちゃ」と、周囲を見渡してから、スマホ画面の確認に戻るAさんでした。		2020/6/1
101	インサイダー取引	コンプライアンスケーススタディ 2020年7月	それ、インサイダー取引です！ Aさんの勤務先は、株式市場に上場したばかりで、これからの成長が期待されています。ある日、部門会議に参加したAさんは、「業界大手X社と当社の業務提携が決まり、来月公表されることになった」という説明を受けました。「この話が発表されたら、うちの株価が上がるな」と考えたAさん。会議終了後、先輩に「今、自社株を買っておいたら、絶対に儲かるってことですよね？親が株をやっているので、勧めてみようかなあ」と話しかけます。すると先輩から、「そんなことしたら、インサイダー取引になるぞ！法律違反だから絶対やめろ」と一喝されてしまいました。		2020/7/1
102	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2020年8月	在宅勤務でハラスメント 月2回の出社日以外、在宅勤務になった女性社員のAさん。通勤ラッシュのストレスがなくなるから大歓迎、と思っていました。そんなある日、Aさんの部署でWebミーティングが行われることに。カメラやマイクを使って、自宅から参加するのは初めてだったAさんは、早めに準備し、同僚数人とメンバーが揃うのを待っていました。すると、いきなり同僚から「家では化粧しないの？」「音がするけど、誰かと一緒に住んでるの？もしかして彼氏！」などと追求され、Aさんはひどく不快な気分になりました。		2020/8/1
103	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2020年9月	自宅で書類がなくなった？ 営業職のAさんは、必要に応じて、出先や自宅で仕事ができるテレワークを行っています。ある日の夕方、客先から自宅に戻り、リビングで仕事を始めたAさん。宅配便が来たので、提案書や見積書などをテーブルいっぱいに広げたまま、玄関へ向かいました。受け取った荷物をその場で片付けてからリビングに戻ると、さっきまで見ていた書類がありません。慌てたAさんが辺りを探すと、なんと書類はゴミ箱の中に…。実は、4歳になるAさんのこどもが、テーブルに置いてあった資料に落書きした後、ゴミ箱に捨てていたのです。		2020/9/1
104	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2020年10月	上司からのセクハラを拒絶したら… 入社3年目のAさんは、今期からチームリーダーを任せられ、いきいきと働いています。ところが最近、上司から二人きりでの食事やドライブにしょこく誘われるようになり、困っていました。はっきりと断りにくかったAさんは、「また、今度」「他の予定があるので」などと、あいまいな答えを返していたのですが、そのうち交際まで迫られるように…。Aさんは勇気を出して、「迷惑なので、やめてください」と上司にはっきり告げました。すると、その後Aさんは職場で上司に無視されるようになり、チームリーダーからも外されてしまいました。		2020/10/1
105	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2020年11月	微熱だけど出社すべき？ 大事な会議が予定されている日の朝、少しだるさを感じたAさん。念のため体温を測ると、37.4度でした。「会議を欠席したら、皆に迷惑をかけてしまう」と、会社を休むかどうか迷ったAさんでしたが、上司に連絡を入れて現在の体調を報告しました。すると上司から、「会議のことは心配せず、自宅で安静にしてください。熱が続いたり、上がったりするようなら、感染症のおそれもあるので、かかりつけ医や地域の相談センターに電話するように」という指示を受け、その日は休暇をとって静養することになりました。		2020/11/1
106	良好な職場環境	コンプライアンスケーススタディ 2020年12月	コミュニケーションは必要ない？ 経理部のAさんは、人と話すことが苦手。仕事にも慣れ、大抵の業務は自分一人で進められるので、極力、周囲とコミュニケーションをとらずに仕事をしています。ある日、Aさんは他部門から問い合わせの電話を受けました。自分の知識だけでは少しあやふやな点もありましたが、何とか一人で質問に回答。ほっとして電話を切ったAさんでしたが、隣席の先輩Bさんから、「Aさん、今の、〇〇の件？どんな問い合わせだったの？」と聞かれました。Aさんが説明をしていくうちに、その回答では不十分だったことがわかり、あわてて他部門に再度連絡することに。その後Bさんから、「わからないことがあったら、気軽に周りに相談してくださいね」と優しく諭されてしまいました。		2020/12/1

107	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2021年1月	男性も育児休業（育休）を！ 営業部のAさんは、第一子誕生を3か月後に控えています。初めての子どもが楽しみで、自分も子育てに深く関わりたいと思っているAさん。妻だけでなく自分も育休が取得できないか、と考えるようになりました。とはいえ、営業部では、過去に育休を取った男性はいないため、難しいのではないかと半ばあきらめています。しかし、Aさんは「相談だけでも」と思い切って上司に話してみました。すると、「わかった、部署でも初の試みだけど、準備を進めていこう。職場全体でサポートするから、安心して」と取得を後押ししてくれたので、Aさんはホッと胸をなでおろしました。		2021/1/1
108	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2021年2月	何でもパワハラ！？ 自分のミスを注意されると、すぐにムッとしてしまうAさん。あるとき、先輩のBさんがAさんの書類のミスを見つけ、「この数字が合っていないよ。見直して、早めに修正してくれる？」と指摘しました。すると、Aさんはみるみる不機嫌になり、「パワハラはやめてください」と言い出したため、Bさんはビックリ。それ以来、Bさんが注意をしても、Aさんは「またパワハラですか、あんまりひどいと相談窓口に通報しますよ」などと主張して、受け入れません。Bさんは「何を言ってもハラスメント呼ばわりされるので、声も掛けられない」「Aさんと、どう接していいかわからない」「これは、逆パワハラじゃないのか」などと嘆き、困り果てています。		2021/2/1
109	マナー違反	コンプライアンスケーススタディ 2021年3月	言葉遣いに気をつけよう 元気で明るい性格の新入社員のAさん。年配の人に対しても臆せず、積極的に話しかけています。そんなAさんの癖は、話が盛り上がってくると、砕けた口調になること。Aさんは自覚がありつつも、「お客様から特に何も言われてないし、大丈夫だろう」と考えていました。ある日、得意先のお客様からの電話を受けたAさん。話に熱中してきたAさんは、だんだんと「マジっすか！」「オレ的には…」など、友だちと話しているような口調に。電話を終えたAさんは、近くで話を聞いていた上司から、「言葉遣いには気をつけて。Aさんの印象、そして会社全体の印象にも関わるんだよ」と注意を受けました。		2021/3/1
110	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2021年4月	チェックを省くのは「会社のため」？ X社の新商品がネットで話題になり、大ヒット！同社の製造部に働くAさんは、新商品の増産で大忙しですが、注文数に出荷が追いつきません。「検品に時間がかかりすぎだよ。チェックを省いて出荷を早めるほうが、売上もアップするし、待っているお客様のためでは？」と考えたAさん。早速、「出荷を早めるために、一部のチェック工程を省略しましょう！」と、リーダーに提案しました。ところがリーダーから、「確かにチェック工程は多く時間もかかるが、お客様に品質の良い商品をお届けするために、必要不可欠だ。省略して、もしも不良品が出たら、どうする！」と、厳しく指摘されてしまいます。納得したAさんは、自分の浅はかな考えを深く反省しました。		2021/4/1
111	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2021年5月	公衆Wi-Fiは、仕事で使っても大丈夫？ 得意先を訪問するため、上司と外出中のAさん。プレゼン前に確認しておこうと、近くのカフェに立ち寄りました。周囲に人がいない席に座り、仕事用のタブレットでデータを確認すると、いくつか資料が足りないことに気づきます。Aさんは焦りましたが、カフェ内にはパスワード不要で使うことができる、無料Wi-Fiがあることを発見、「会社にいるBさんに、メール添付で送ってもらおうと思います」と、上司に告げました。しかし、上司から「公衆Wi-Fiは、ウイルス感染や情報漏えいのリスクが大きい。会社の情報端末を接続するのは、社内ルールで禁止されているよ」と、止められてしまいました。		2021/5/1
112	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2021年6月	連絡が遅れたら、サボリ？ テレワーク中のAさんは、毎日決まった時間に、チャットツールで上司に業務報告をしています。ある日、作業に没頭して報告のことを忘れていたAさん。いつもより20分遅れて報告をしました。すると上司から「遅いぞ。サボっていたんじゃないのか？」とメッセージが届きます。Aさんは事情を説明しましたが、上司は納得していない様子。「今後は、報告の回数を増やすように」「連絡したら、5分以内に返信すること」などと要求が厳しくなり、Aさんは「こんなんじゃない！」「と、頭を抱えてしまいました。		2021/6/1
113	知的財産	コンプライアンスケーススタディ 2021年7月	雑誌をコピーし、会議で配付してもいい？ 商品企画部に所属しているAさんが、会社で購読している雑誌を読んでいたところ、同業のX社の特集記事を見つけました。「この内容は役に立つから、部内で共有したい。コピーして、今度の会議で配付しよう」と考えたAさん。早速、雑誌をコピーしていると、通りかかった上司から、「コピーしていいの？著作権は大丈夫？」と話しかけられました。	著作権法	2021/7/1
114	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2021年8月	息抜きは必要だけど… Aさんは、昼休み以外の就業時間中にも、会社の近くにあるコンビニや喫煙所まで外出することがあります。Aさん自身は、「自分の仕事のキリがよいときを見計らっているし、息抜きは必要だ」と考えていました。しかしある日、上司に呼び出され、「離席が多すぎて、みんなが迷惑している」と注意されたAさん。「電話を取り次ごうとしたり、業務の相談をしようとしたりしたとき、不在で困る」という話が周囲からあったことを聞き、反省するのでした。		2021/8/1
115	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2021年9月	不当な要求への対応は？ スーパーでレジを担当しているAさん。店内が混み合う時間帯に、イライラした様子でレジの列に並んでいたお客様から、「遅い！いつまで待たせるんだ」と怒鳴られてしまいました。驚くAさんは、「すみません。大変混み合っておりまして…」と謝罪しますが、「急いでいるから、こっちを先に会計しろ！」とお客様はさらに声を荒げます。Aさんは、怖くて何も言うことができず、困り果ててしまいました。		2021/9/1
116	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2021年10月	SNSの投稿がきっかけで、クレームに… 商品企画部で働くAさんは、退勤後、その日の出来事をSNSに投稿するのが趣味。投稿の公開範囲は、一部の友人のみに限定しています。ある日、仕事でアニメ制作会社のZ社と共同開発中の新商品のことを、つい自慢したくなったAさん。「新商品開発は大変だけど、大好きなアニメとのコラボだから頑張る！」と、Z社の社名は書かずに、投稿しました。しかし、Aさんが過去にZ社のアニメの感想を投稿していたことや、Z社の公式HPで新商品発表の予告があったことなどから、友人たちは「Aさんの会社とZ社がコラボするんだ！」と推測し、話題になりました。その話題は、公開されたSNSにも投稿され拡散し、ついにはZ社の担当者も知ること…。「公表前の情報が漏えいしている」として、Aさんの会社からZ社からクレームが入ってしまいました。		2021/10/1
117	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2021年11月	ノー残業指示で、隠れ残業に… Aさんが所属する制作課では、「残業時間の削減」が今期の目標です。課長は、「業務の効率化を進めて欲しい」と言いますが、皆、従来の業務手順や方法に慣れており、「効率化できないと思えないし、新しい方法を考えるのは面倒」と見直しには消極的でした。しばらく経っても、残業時間の削減に向けた取り組みが進まないことに苛立った課長。強制的に残業を制限しようと、突然、課員全員に定時退社を命じました。しかし、納期が1週間後に迫っていたAさん。「残業しなきゃ、間に合わない」と、無断で自宅に仕事を持ち帰り、隠れ残業をするようになってしまいました。		2021/11/1

118	基本的人権	コンプライアンスケーススタディ 2021年12月	それって勝手な思い込みでは？ Aさんの職場には、育児をしながらフルタイムで働く女性の同僚がいます。職場で、てきぱきと働く姿を見て、「家事や保育園の送り迎えもあるのに…。きっと、無理してフルタイムで働いているんだろうな」と心配するAさん。ある日、その同僚と話す機会があったAさんは、「無理せず、時短で働けばいいのに」と伝えました。すると、同僚は不思議そうな表情。話を聞くと、家事や育児は夫と分担しながら行っていて、保育園の送り迎えは、夫が担当しているというのです。それを聞いたAさんは、「家事や育児は、女性が中心に行うもの」という自分の勝手な思い込みを、恥ずかしく思いました。		2021/12/1
119	輸出入関連	コンプライアンスケーススタディ 2022年1月	修理のための返送なら、輸出許可は必要ない？ 新商品開発プロジェクトを担当するAさん。海外から、商品開発のために必要な機器を輸入しました。しかし、届いた機器に不具合が発生。Aさんは、その機器が輸出規制の対象になっていることは知っていましたが、修理の目的で、輸入元の海外の会社へ返送するなら大丈夫だろうと思い、通関手続きをせずに返送しようとしてしまいました。ところが実際には、輸出許可が必要だったため、機器は税関で止められ、輸出の手続きを行うことに。「危うく密輸となってしまうところだった」と、Aさんは冷や汗をかいたのでした。		2022/1/6
120	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2022年2月	飲食の強要はダメ！ 職場の懇親会で、新入社員のAさんの隣に座った先輩のBさん。Aさんに「若いんだから、もっと食べろよ」「もっと飲め」と、お酒や食事を強引に勧めます。「あんまりお腹空いてなくて…」「お酒は弱いので…」と、やんわり断っていたAさんですが、Bさんの語気は強まり、ついには、「先輩命令だぞ～」と言言。普段は優しいBさんだから、悪気はないのだろうと思いつつも、Aさんは嫌な気持ちになりました。 その後も、飲み会がある度にBさんからお酒や食事を強引に勧められたAさんは、困り果て、思い切って上司に相談。上司から注意を受けたBさんは、自分の行為がAさんに苦痛を与えていたことに気づき、Aさんに謝りました。		2022/2/1
121	公正な取引	コンプライアンスケーススタディ 2022年3月	「これ、カルテルでは？」と思ったら… 同業種の企業が集まる会合に出席した営業部のAさん。一人の出席者が「原材料価格の高騰」について話し始めると、「いやあ全く困ったものです」「このままでは利益が…」と、口々に内情を訴える声があがってきました。そして気が付くと、商品の販売価格や条件などの話題に。 「これって、カルテルになるのでは？」と思ったAさん。「すみません、これ以上この会話には参加できません」と言って、その場を立ち去りました。 会社に戻ったAさんは、会合を退席した理由をすぐに上司に報告。後日、会合に出席していた各社には、カルテルの疑いがあるとして、公正取引委員会の調査が入りました。	独占禁止法	2022/3/1
122	反社会的勢力	コンプライアンスケーススタディ 2022年4月	反社会的勢力の要求に屈しない メーカーの総務部で働くAさん。ある日、突然の来訪者の対応に出たところ、「貴社製品の問題について、責任者と話がしたい」と告げられました。詳細を尋ねても答えず、高圧的な態度と脅すような口調で「早く責任者を出さないと、どうなるかわかってんのか」と話してきました。その様子から、「反社会的勢力では」と感じたAさん。一人だけでは対応が難しいと判断し、まずは応接室に通した後、上司に相談しました。そして、社内の対応マニュアルに従って体制を整え、会話をメモする人や、警察への通報に備える人など、役割を分担し、冷静に対処。理不尽な要求をした来訪者でしたが、つけ入る隙がないとわかると帰っていきました。		2022/4/1
123	マナー違反	コンプライアンスケーススタディ 2022年5月	歩きスマホはやめましょう！ ある日、Aさんが社内を歩いていたところ、スマホにメールの着信がありました。顧客からの急ぎの用件だったので、Aさんはそのまま歩きながらメールの内容を確認しています。すると、廊下の角を曲がってきたBさんと、危うくぶつかりそうに。Bさんが避けたことで、衝突は免れました。スマホ画面のメールに気をとられ、前を見ていなかったAさんは、Bさんに気づくとすぐに謝りました。		2022/5/2
124	地域との関わり、環境保全	コンプライアンスケーススタディ 2022年6月	SDGsを知ろう ある日、会社でSDGsの研修を受けたAさん。終了後、一緒に研修を受けたB先輩に、「今まで廃棄していた副産物※を使って、新製品を作っていると聞いて、びっくりです」と話し掛けました。B先輩も、「SDGsへの取り組みから生まれた製品として広めたいね。あと、〇〇社がSDGsロゴを使った自社デザインのエコバッグを社員全員に配っている話、デザイン会社ならではの発想だよな」と他社事例に感心した様子です。SDGsについてもっと知りたくなったAさんは、他社の取り組みや、個人でできる取り組みについて、さらに調べてみようと思いました。 ※：ある製品の生産過程で、常に生じる他の産物のこと。		2022/6/1
125	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2022年7月	屋外でも屋内でも！熱中症に気をつけよう X建設に勤めるAさんは、ビルの建築工事に携わることになりました。最高気温が30度を超える真夏日になったある日。屋外の現場では、水分・塩分補給のため、1時間に1回、一斉に休憩を取るルールとなっていました。 午後の作業が開始してから1時間が経過した頃、現場監督が休憩の呼びかけをしました。しかし、「キリのいいところまで、やってしまいたい」と考えたAさんは、休憩を取らずに作業を続行。皆が休憩から戻ってしばらく経った後、Aさんは急に気分が悪くなり、その場に座り込んでしまいました。ぐったりしているAさんに気づいた現場監督が、慌てて救急通報。運ばれた病院で、Aさんは熱中症と診断されました。		2022/7/1
126	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2022年8月	テレワークだからこそ自己管理を！ 会社がテレワークを導入してから約1年。当初は、自宅での業務やオンラインのコミュニケーションに戸惑うAさんでしたが、1～2か月も経つとすっかり慣れました。今では、慣れで気が緩み、業務時間中に仕事とは無関係なWebサイトを見たり、私用で近所のコンビニに無断で出かけたたりすることもあります。「細かい勤務状況の把握は無理だろうし、バレない」と考えていたAさんでしたが、ある日、テレワークの実態調査の一環でパソコンのログ（利用状況）を確認することになり、サボりが発覚。Aさんは嚴重注意を受けてしまいました。		2022/8/1
127	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2022年9月	退職者との何気ない会話に要注意！ Aさんは、2年前に転職した元同僚のBさんと久々に会って食事をするようになりました。Bさんとは、同じ職場にいた当時からプライベートでも会うほど仲が良く、退職後も交流が続いていました。2人は食事をしながら、昔話で盛り上がります。そして話は自然と、現在の仕事のことになりました。 Aさんが「そうそう。発表前だけど、うちの会社、大手のX社とコラボが決まって…」と、自慢気に話し出すと、Bさんから「ちょっと待って！今のは、聞かなかったことにするよ」と止められました。「僕はもう別の会社の人間なんだから、情報漏えいになるよ」と諭すBさん。Aさんは、自分の認識の甘さを反省しました。	金融商品取引法、不正競争防止法	2022/9/1
128	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2022年10月	ハラスメントを軽視しない！ 社内のハラスメント研修の告知を見たAさんは、苦笑いをしながら同僚のBさんに話しかけました。「ハラスメントって、大げさな人が騒いでいるだけだと思わない？」そんなAさんの言葉に、Bさんも「そうそう。皆の前で怒鳴られたくらいで、会社を休むなんて、メンタル弱すぎ！」と笑いながら答えます。すると、会話を聞いていた上司から「ちょっと待って。ハラスメントは笑いごとではないよ。そうしたハラスメントを軽視する考えが、被害者をさらに追い込み、傷つけるんだ」と注意を受け、2人は自分たちの発言が軽率であることに気づきました。		2022/10/3
129	下請法	コンプライアンスケーススタディ 2022年11月	親事業者の都合による返品はダメ！ Aさんが勤務する大手メーカーでは、部品の製造を下請のX社に委託しています。ある日、X社から納入された部品を検品していたAさん。「数が多いような…」と思い、確認したところ、X社への発注書に誤りがあったことが判明しました。Aさんは、急いで課長に「今日納品された部品、間違えて多く発注していました。すぐにX社に連絡し、返品の手続きを取ります」と報告。すると課長から、「発注ミスは、うちの責任。X社に落ち度はないのだから、返品はできないよ」と注意を受けました。	下請法	2022/11/1

130	良好な職場環境	コンプライアンスケーススタディ 2022年12月	派遣社員だから冷遇される？ X社で派遣社員として働いているAさん。正社員のBさんから指示された作業を行っているとき、「手順を変更すれば、早く作業が進められる」と考えました。そこで、Bさんに「なぜ、この手順になっているのでしょうか。手順を変更できれば、もっと効率が良くなると思います」と提案します。 しかしBさんは、Aさんに理由を説明したり、手順を変更したりすることが面倒であると感じ、「Aさんは派遣社員なので、頼んだことだけしてくれば大丈夫ですよ」と回答。Aさんは、「作業時間を短くできたかもしれないのに。派遣社員だから、話を聞いてもらえないのかな」と感じ、嫌な気持ちになりました。		2022/12/1
131	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2023年1月	「産休や育休は取れないよね」と言われて… X社で働くAさんは一昨年結婚し、近い将来、子どもがほしいと思っています。「子どもができて、この仕事を続けて、仕事と育児を両立していきたいな」と今後のライフプランを想像していました。 ある日、同僚のBさんから「隣の部署で育休を取った人がいるんだって」と話しかけられたAさん。「制度はあってもさ、実際、休まれると周りは大変だよ」「うちの部署はただでさえ忙しいし、産休や育休なんて取れないよね」と言われてしまい、今後の働き方に不安を感じました。		2023/1/6
132	賄賂、接待、贈け事の禁止	コンプライアンスケーススタディ 2023年2月	国家公務員への接待は禁止です！ 印刷会社に勤めるAさんは、取引先担当者の国家公務員Bさんとの懇親会に、上司と共に出席しました。会も終わりにしようとした頃、幹事を担当していたAさんは、ふとひらめき、上司にこっそり話しかけました。 「割り勘ということですが、うちの会社が黙って多めに支払ってはどうでしょうか？Bさんには、いつもお世話になっているので」とAさんが提案すると、上司は「それはダメだよ」と慌てて答えます。「割り勘じゃないと接待になってしまう。かえってBさんに迷惑をかけるよ」と諭されました。	国家公務員倫理規程	2023/2/1
133	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2023年3月	ID・パスワードを共有すれば、便利？ 営業部のAさんは、新規顧客データの追加方法に疑問を感じていました。新規顧客データは、顧客管理システムに追加するのですが、Aさんに顧客管理システムへの追加・更新権限はありません。そのため、追加が必要になるたび、権限のある課長に作業を依頼しなければならないのです。そこでAさんは、「課長のIDとパスワードを部署内で共有し、誰でも追加作業ができるようにしたい」と課長に提案しました。すると課長は、「このシステムでは個人情報や重要情報を扱っているから、アクセス制限を設けているんだよ。面倒かもしれないが、毎回依頼してほしい」と言われ、納得しました。		2023/3/1
134	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2023年4月	休憩時間や退勤後に仕事の話？ Aさんの先輩Bさんは、思いついたらすぐに話しかけたい性格。ある日の昼休み、食事に出かけようとするAさんに「この書類、修正してくれる？」と声を掛けてきます。話を聞くと、特に急ぎではないようです。Aさんは「それなら、昼休みの後に依頼してほしいな」と思いつつも、先輩に遠慮して言い出せません。別の日には、退勤の打刻を終え、帰ろうとしているAさんに「新商品の件だけど」とBさんが話しかけます。「もう帰るところなのですが、今ですか？」とAさんが尋ねると、「明日でもいいんだけど、早いほうがいいと思って」とBさんは話を始めました。結局、仕事の話を少ししてから帰ることに。こうしたBさんの言動に、Aさんは「ほんの数分のことだけど…イヤだな」と感じています。		2023/4/3
135	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2023年5月	どう見られるかを意識しよう お客様と対面で初めて商談を行った営業部の新人Aさん。直前まで資料を確認し、緊張しながらも商品説明を無事に終えることができ、ちょっと満足しています。しかし、オフィスに戻る途中、同行していた先輩Bさんから、「初めてだから仕方ないけど、Aさんは、もっとお客様の顔を見たほうがいいよ。あと、挨拶や受け答えははっきりしよう」とアドバイスを受けました。そして、「お客様に、商品のよさを伝えるだけでなく、Aさん自身がよい印象を持たれることも大切だよ」という言葉に、Aさんは、「説明に必死でお客様の顔を見ていなかったし、緊張して声も小さかった」と、目の前のお客様に丁寧な対応ができていなかったことを反省しました。		2023/5/1
136	誠実な活動	コンプライアンスケーススタディ 2023年6月	廃棄予定なら、持ち帰っても大丈夫？ アパレル会社の直営店に勤務するAさん。店舗裏の倉庫に商品を取りに行ったとき、「廃棄予定」の棚に販促品があることに気がきました。「これ全部、捨てちゃうのか…」と思ったAさん。「どうせ廃棄するんだし、ちょっとくらいいいよね」と、こっそり数点持ち帰ることにしました。持ち帰ったのは、人気キャラクターを使ったクリアファイルで、一部の関係者のみに配られていた非売品です。「フリマサイトに出品したら売れるかも？」と考えたAさん。さっそく出品すると、すぐに売れました。しかし数日後、フリマサイトに非売品が出品されていることがわかり、社内で調査することに…。その結果、出品者であることが発覚したAさんは、懲戒処分になってしまいました。		2023/6/1
137	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2023年7月	日々の清掃が事故防止に繋がる！ Aさんが働く工場では、機械を使用した後に、必ず清掃を行っています。ある日、いつものようにAさんが機械を清掃していると、普段は汚れない箇所に油のようなものが付着していることに気がきました。「変だな」と思ったAさんは、念のため上司に報告。その後、機械を分解して点検を行った結果、内部の部品にヒビが入っていたことがわかり、交換修理になりました。Aさんは、「あのまま使っていたら、事故が起きていたかも」と、日々の清掃の重要性を痛感しました。		2023/7/3
138	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2023年8月	周りに合わせて残業？ 最近、X支店に異動してきたAさん。ある日、終業時刻になり、Aさんが帰宅しようとしていると、隣の席の先輩が「いいね、早く帰れて。こっちはまだ仕事だよ」とつぶやきます。驚いて周囲を見ると、誰も一向に帰る様子がありません。Aさんは、先輩に手伝うことを申し出ますが、「すぐに分担できる仕事ではない」と断られてしまいました。「帰りづらいなあ…」と思ったAさんは、書類の整理や自己学習などに取り掛かり、残業をすることに。そうしたことが何度かあり、「どうせ残業することになるなら」と一つひとつの作業を本来よりも多くの時間をかけるようになりました。Aさんは、残業するたびに「本当は無駄な残業なんてしたくないのに」と悩んでいます。		2023/8/1
139	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2023年9月	バワハラと思われることを恐れて、指導を避けたら… Aさんは、新入社員Bさんの指導を担当しています。ある日、Aさんが休憩室の前を通りかかると、Bさんを含む新入社員数人の話し声が聞こえてきました。その内容は、「Aさんの指摘、厳しいんだよなあ」「『それ、バワハラです！』っていえば、やめるかもよ」というもので、Aさんはびっくり。 それからAさんは、周囲からバワハラと思われることを恐れ、Bさんの業務で気になることがあっても、指導を避けるようになりました。その結果、Bさんの業務習得は進まず、お客様に迷惑をかける事態になってしまいました。		2023/9/1
140	基本的人権	コンプライアンスケーススタディ 2023年10月	様々な人が働きやすい職場に Aさんの部署に、発達障害のあるBさんが配属されました。Bさんは業務に役立つ豊富な知識を持っていますが、単純なミスを繰り返したり、手順を忘れたりすることがあります。その様子を見て、「Bさんに、この仕事は無理なのでは」と考えたAさんは、上司に相談しました。 すると上司は「Bさんを交えて3人で、仕事の進め方について話してみよう」と提案。後日、Bさんから話を聞くと、「指示が曖昧だとわかりにくい」「一度にいろんなことをいわれると混乱する」といったミスの要因がわかりました。そこで、指示は具体的に行う、業務は一つずつ依頼するなどの工夫をしたところ、Bさんのミスは減って落ち着いて仕事ができるようになり、知識も活かせるようになりました。		2023/10/2

141	法令順守	コンプライアンスケーススタディ 2023年11月	しつこい勧誘はダメ！ X社に勤めるAさんは、電話で営業活動をしていますが、思うように契約が取れません。そんな状況に焦り、「断られても諦めない姿勢で取り組もう」と決意したAさん。「契約はしない」とはっきりと断られても、「考え直していただけませんか」「きっとご満足いただけますよ」と、何度も電話をかけて契約を迫りました。しかし、消費生活センターに、「X社の勧誘がしつこくて困っている」という消費者からの相談があったことから、特定商取引法違反の疑いで、X社が調査されることになってしまいました。	特定商取引法	2023/11/1
142	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2023年12月	就活生に私的な連絡をしたら Aさんは、先輩社員の代表として、自社の新卒採用活動に協力しています。ある日の説明会で、Aさんは参加者のBさんに好意を持ちました。「また会いたい」と考えたAさんは、Bさんの履歴書に記載されていたメールアドレスに、「今度、二人で会えませんか。採用の話もできると思います」とメールを送りました。メールを読み、「二人で会って、なぜ？」と不安になったBさんは、説明会を運営していた人事部の社員に相談。その結果、Aさんが参加者の個人情報を実的に使用し、不適切な行動をとったことが発覚し、Aさんは懲戒処分となりました。		2023/12/1
143	相談窓口	コンプライアンスケーススタディ 2024年1月	他部門のことも、気になったら相談しよう 工場の製造課に所属するAさん。あるとき、品質管理課との会議で、一部の製品の品質検査工程が省略されていることを知りました。Aさんは、その検査について法令で定められているという認識だったため、疑問に思い品質管理課の担当者に質問したところ、「以前からこのやり方だから、問題はない」との返答。会議のあと、Aさんは「他の課のことだし、口を出さない方がいいのかな」と悩みましたが、「法令違反かもしれないし、放置するのはよくない」と考え直し、上司に相談することを決めました。		2024/1/5
144	良好な職場環境	コンプライアンスケーススタディ 2024年2月	活発な発言が交わされる職場のために A課長は、日頃から会議で発言の少ない、部下のBさんのことが気になっていました。本人に話を聞いてみると、「否定されるのが怖くて、発言をためらっている」と言います。それを聞いてA課長は「発言の内容が否定されることはある。でも、それは建設的な議論では当然あることで、Bさん自身が否定されているわけではないよ」と伝えました。Bさんのように感じている人が他にもいるかもしれないと考えたA課長。朝礼の場であらためて、「会議は、業務の改善や会社の成長を目的としている」と説明したうえで、活発に発言してほしいこと、発言では相手を尊重し、建設的な議論を心掛けることを部署全体に伝えました。		2024/2/1
145	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2024年3月	その電話、聞こえます！ 営業部のAさんは、取引先であるY社のオフィスがあるビルのエントランスホールで、担当者と待ち合わせをしています。すると、Aさんのスマホに別の取引先から電話がかかってきました。まだ待ち合わせの時間まで余裕があったことから、電話に出ることにしたAさん。相手からの商品の価格や納期などの質問に答えて電話を切った後、後ろを振り向くと、Y社の担当者が立っていました。「電話の内容、結構聞こえていましたよ。ここはいろんな人が通るけど、聞かれても大丈夫ですか」と指摘され、Aさんは、エントランスホールで業務に関する情報を話したことをとても反省しました。		2024/3/1
146	良好な職場環境	コンプライアンスケーススタディ 2024年4月	その「イライラ」、気になります！ IT企業で働くAさん。担当しているプロジェクトが予定通りに進まないときは、ついイライラすることがあります。Aさんは、その度に舌打ちをしたり、「無理だろ」「やってられないよ」などと声を出したりすることで不満を発散しているようでした。そんなAさんの様子を見かねた同僚のBさんは、「大変なのはわかるけど、その舌打ちと独り言、感じが悪いよ」と注意します。しかし、Aさんは「そんなに気になる？」と疑問に思うのでした。		2024/4/1
147	法令順守	コンプライアンスケーススタディ 2024年5月	法令の目的、趣旨を理解しよう メーカーで広報を担当しているAさんは、新商品のチラシを作成していました。説明文やキャッチコピーに悩んだAさんは、「景品表示法違反にはならないよう気をつけるつもりですが、インパクトを重視したものにしようと思います。多少なら、大げさな表現は許されますよね？」と、上司に意見を求めました。すると上司に、「その考え方は、危険だよ」と注意されます。「たとえ法令には違反しなかったとしても、お客様が誤解するような表示になっていたら、信頼を失うよ。法令の目的や趣旨をよく理解してください」と言われてしまいました。	景品表示法	2024/5/1
148	下請法	コンプライアンスケーススタディ 2024年6月	下請事業者から値上げの相談を受けたら 工場で働くAさんは、ある日、部品の製造委託先である下請事業者のY社から「昨今の物価高で原材料費も上昇しており、部品の価格を値上げしたい」という相談を受けました。Aさんは、「たまたまY社からは申し入れがあったけれど、他の製造委託先も同じ状況かもしれない。それに、値上げを言い出しにくいと感じている業者もあるのでは」と考えます。その後、社内で相談のうえ、Y社の提示した価格への値上げに応じるとともに、他の下請事業者にも連絡し、取引価格について協議の場を設けることにしました。	下請法、独占禁止法	2024/6/3
149	相談窓口	コンプライアンスケーススタディ 2024年7月	相談内容は冷静かつ具体的に伝えよう Aさんは業務でミスをして、上司から厳しい指導を受けました。Aさんはミスを反省しつつも、上司の指導はやりすぎではないかと感じました。数日経っても不満は増すばかりだったため、「あれはパワハラだ」と、会社の相談窓口で電話することにしました。 電話では、相談窓口の担当者からパワハラの状況について聞かれましたが、上司への不満がおさまらないAさんは、自分がどんなに傷ついたかだけを一方的に話します。さらに、「上司に謝罪してほしい」「そもそも気が合わないので、上司を別部署に異動してほしい」と強く要求。ついには、困惑した担当者から「まずは落ち着いて、具体的に話を聞かせてください」と言われてしまいました。		2024/7/1
150	ハラスメント	コンプライアンスケーススタディ 2024年8月	同僚に無視されて…… ある日、Aさんは会議の場で、同僚のBさんの提案に対し「作業効率が悪いため、見直すべきではないでしょうか」と反対意見を出し、軽く口論になりました。Aさんの発言に腹を立てたBさんは、その日からAさんを見無視し目も合わせません。さらにBさんは、「あいつの意見を聞けば余計な仕事が増える」などと言いふらし、それを聞いたほかの同僚たちも、同様にAさんを見無視するようになりました。それからAさんは、自分にだけあいさつを返してもらえないことや、質問しても返事してもらえず、作業が進められないことなどが続き、精神的に追い詰められていきました。		2024/8/1
151	地域との関わり、環境保全	コンプライアンスケーススタディ 2024年9月	みんなで取り組む環境保全活動 ある日、Aさんは、同僚のBさんから、使っていない部屋の電気の消し忘れを注意されました。Bさんは、環境保全に関心を持っていて、日頃から節電や節水を心掛けており、周囲にも声掛けをしています。そんなBさんに対し、Aさんは「ごめん、消し忘れてた。こういうことって、環境に影響があるのかな？」と聞いてみました。すると、Bさんから「うちのWebサイトで公表している環境レポートを見てみたら」と勧められます。そこには会社の環境保全活動の記録や、エネルギー使用量の減少を示すグラフが掲載されていました。「これは会社全体の活動による成果だけど、個人の身近な行動も積み重なれば、影響があると思うよ」というBさんの話に、Aさんは納得しました。		2024/9/2
152	労務関係	コンプライアンスケーススタディ 2024年10月	隠れて残業すると Aさんは夕方、退勤の打刻をした後に、本日が提出期限の書類を作成し忘れていたことに気づきました。書類は30分ほどで作成できるはずですが、今から取りかかるには上司に残業の申請が必要です。しかし、上司は外出中で、今日はそのまま直帰で会社には戻らない予定です。事後申請を面倒に思ったAさんは、「30分だけだから」と、打刻し直さずに隠れて作業することにしました。ところが後日、提出した書類の最終更新時間からAさんが隠れて残業していたことが発覚し、上司から注意を受けました。	労働基準法	2024/10/1
153	知的財産	コンプライアンスケーススタディ 2024年11月	インターネット上のイラストを勝手に利用したら 販促用資料を作成していたAさん。Webサイトで使われていたイラストが資料の内容に合っていたので、保存して利用することにしました。たまたま、その資料を見た同僚のBさんが、「イラストがあってわかりやすい。ホームページにも載せたいな」と、資料の一部を勝手に流用。後日、資料に使われていたイラストの著作権者から会社に連絡があり、無許可でイラストが使われていると指摘されてしまいました。	著作権法	2024/11/1

154	個人情報の管理	コンプライアンスケーススタディ 2024年12月	同僚の病気について取引先から尋ねられたら Aさんは持病の悪化により、先月から入院しています。Aさんが担当していた業務を引き継ぐことになったBさんは、上司と一緒にお客さま先を訪問し、担当が代わることを説明しました。すると、心配したお客さまから「Aさんに何かあったのですか？」と聞かれました。BさんがAさんの病気について話そうとすると、すぐに上司がそれを制止し、「本人に確認して許可が取れましたら、ご連絡します」と代わりに説明。訪問の後、Bさんは上司から、「病名などの個人情報は、お客さまであっても勝手に話してはいけないよ」と注意を受けました。	個人情報保護法	2024/12/2
155	廃棄物処理法	コンプライアンスケーススタディ 2025年1月	産業廃棄物を処理するときは 総務部のAさんは、事務所の引っ越しに伴い、机や椅子などの廃棄を担当することになりました。これらは産業廃棄物のため、処理の委託業者を探す必要がありますが、Aさんは他の業務も忙しく、なかなか時間がとれません。そんなある日、オフィスに届いていた産廃処理業者からのチラシを見つけました。チラシによると値段が安く、自治体から許可も得ていると書かれていたので、Aさんは「ちょうどよかった」と、急いで業者に連絡をして、処理を委託しました。ところが、引っ越しの数か月後、委託先が廃棄物を不法投棄していたことが発覚し、Aさんの会社にも自治体の調査が入ってしまいました。	廃棄物処理法	2025/1/7
156	情報漏洩／情報セキュリティ	コンプライアンスケーススタディ 2025年2月	社用スマホを紛失したら 営業部のAさんは外出先からの帰社後、会社から支給されているスマートフォンがないことに気づきました。慌てたAさんは、ポケットやカバン、道中など考えられる場所を探しましたが、見つかりません。「怒られるだろうから、なんとか見つけたい」と探し続けて数日。どうしても見つからず、諦めたAさんは、上司に恐る恐る報告しました。すると、紛失したことに加え「どうしてすぐに報告しなかったんだ！ 」と、報告が遅れたことについて厳しく注意されてしまいました。		2025/2/3
157	マナー違反	コンプライアンスケーススタディ 2025年3月	「その音、うるさい！」はお互いさま パソコンで文書を作成していたAさん。すると、隣の席のBさんから「前から思っていたけど、Aさんのキーボードを打つ音はうるさすぎる。集中できないよ」と指摘されました。突然のことでAさんが驚き、何も返せずにいると、さらにBさんは「周りの人に迷惑をかけてるって気づいてないよね」と続けます。その言葉にカチンときたAさんは、「Bさんだって、電話の音がいつも大きいじゃないか。そっちのほうが迷惑だ」と反撃し、言い合いになってしまいました。		2025/3/3
158	景品表示法	コンプライアンスケーススタディ 2025年4月	ステルスマーケティングは、違法です！ 化粧品メーカーで販売促進を担当するAさんは、SNSで人気の美容系インフルエンサー数名に謝礼を支払い、自社の新商品をすすめる内容の投稿を依頼しました。その際、企業からの依頼であることは隠すよう指示していました。しかし、数日後、同商品をすすめるインフルエンサーの投稿が急増したことを不審に思った人が消費者庁に通報。同社は消費者庁から、ステルスマーケティングの疑いで調査を受けることになってしまいました。	景品表示法	2025/4/1
159	安全衛生	コンプライアンスケーススタディ 2025年5月	労働災害（労災）の虚偽報告はダメ！ 建設会社に勤めるAさんは、△△社から請け負った工事の現場監督をしています。ある日、現場の作業員が誤って資材を落とし、足の指の骨を折る事故が起きてしまいました。 「△△社に報告したら、安全管理が不十分だと思われ、今後は仕事をもらえなくなるかも」と考えたAさん。ケガをした作業員と口裏を合わせ、事故を自社が元請けをしている別の工事で起きたものとして虚偽の労災報告をし、事実を隠べいしようとしてしました。	労働安全衛生法	2025/5/1